

山元町教育委員会に関する点検評価報告書

(令和3年度事業)

令和5年1月

山元町教育委員会

目 次

I	はじめに	
1	点検及び評価の趣旨	1
2	点検及び評価に対する事務の対象	1
3	点検及び評価の実施方法	1
4	評価結果の取扱い	1
II	山元町教育振興基本計画	
1	基本方針	2
2	計画の目標	2
3	基本方向と基本施策	3
	基本方向1 学ぶ力と自立する力の育成	3
	基本方向2 豊かな人間性や社会性、健やかな身体の育成	3
	基本方向3 信頼され魅力ある教育環境づくり	3
	基本方向4 家庭・地域・学校が協働して 子どもを育てる環境づくり	4
	基本方向5 伝統・文化の尊重と国際理解を育む教育の推進	4
	基本方向6 生涯にわたる学習・文化・スポーツ活動の推進	4
	基本方向7 防災教育をとおした命を守る意識の高揚	4
III	点検及び評価の結果	
1	教育委員会の活動	5
2	教育関係経費決算の状況	8
3	学校教育の充実	9
4	生涯学習の推進	16
5	点検評価表（山元町教育振興基本計画アクションプランに基づく点検評価表）	27
IV	学識経験者の意見書	76
V	参考法令	84

山元町教育委員会に関する点検評価報告書

I はじめに

1 点検及び評価の趣旨

地方教育行政の組織及び運営に関する法律（昭和31年法律第162号）第26条第1項の規定により、教育委員会は、毎年、その権限に属する事務の管理及び執行の状況について点検及び評価を行い、その結果に関する報告書を作成し、議会に提出するとともに、公表することとされています。

山元町教育委員会では、今後の効果的な教育行政の推進及び町民への説明責任を果たすことを目的として、教育委員会の事務の点検及び評価を実施し、その結果を報告書としてまとめました。

2 点検及び評価に対する事務の対象

「山元町教育振興基本計画（アクションプラン）」に定める施策に関する事務事業のうち、令和3年度において教育行政の推進上、重要な課題に係るもの及び重点的、継続的な事業等（昨年度の事務事業において課題があるとされているもので継続して評価すべき事業）その他点検評価を行うことが必要と認める事業を対象としました。

3 点検及び評価の実施方法

点検及び評価については、対象事業ごとに必要性、効率性、公平性の観点から教育委員会事務局内部による自己総合評価を行い、さらに点検評価の客観性を確保するために教育に関する有識者の意見を聴取し、点検評価表を作成しました。令和3年度の山元町教育委員会が所管する事業の取り組み状況を総括するとともに、そこでの課題や、今後の方向性を示しつつ、学識経験者の意見を付したうえで取りまとめを行うものとします。

なお、結果を取りまとめた報告書については、山元町議会に提出するとともに、公表するものとします。

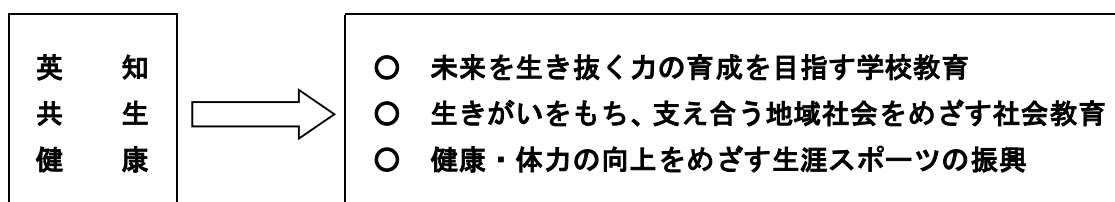
4 評価結果の取扱い

この点検評価結果については、評価の高い事業については、引き続き実施し評価の低い事業については、課題や問題の解決を行うと同時に事業の見直しについて検討し、翌年度以降における施策、事業の改善に役立てるものとします。

Ⅱ 山元町教育振興基本計画（平成 29 年度～令和 3 年度）

1 基本方針

復興から新しいまちづくりをめざす山元町の豊かな自然と風土の中で、家庭及び地域の教育力を生かし、心豊かでたくましい人間形成を図るとともに町民の生涯にわたる学習の充実を努める。



2 計画の目標

本町教育が5年間で目指す姿の実現に向けて、具体的には、4つを「計画の目標」として取り組みます。

- 目標 1 夢と志を持ち、その実現に向けて自ら考え行動し、社会を生き抜く人間を育む。
- 目標 2 家庭・地域・学校の教育力の充実と連携の強化を図り、山元の豊かな教育資源を生かしながら、社会全体で子どもを守り育てる環境をつくる。
- 目標 3 次代を支える社会の一員として、歴史が培ってきた文化や規範を尊重し、思いやりの心に富んだ人間を育むとともに他国の文化の理解を深める。
- 目標 4 生涯にわたり学び、互いに高め合い、充実した人生を送ることができる地域社会をつくる。

3 基本方向と基本施策

本計画では、目指す姿の実現を目指し、4つの計画目標のもと、7つの基本方向及び基本施策に取り組みます。

基本方向1 学ぶ力と自立する力の育成

- (1) 「志教育」の推進
- (2) 基礎的な学力の定着と活用する力の伸長 **重点的事項①**
- (3) 学校間、幼稚園・保育所・小学校の連携促進 **重点的事項②**
- (4) 時代の要請に応えた教育の推進
- (5) 一人一人の教育的ニーズに応じた特別支援教育の推進

基本方向2 豊かな人間性や社会性、健やかな身体の育成

- (1) 感性豊かでたくましい心を持つ子どもの育成と支援 **重点的事項③**
- (2) 健康な身体づくりと体力・運動能力の向上 **重点的事項④**
- (3) 食に関心を持ち、元気な子どもの育成
- (4) 心身の健康を保つ学校保健の充実

基本方向3 信頼され魅力ある教育環境づくり

- (1) 小・中学校再編による未来を拓く学校づくりの推進 **重点的事項⑤**
- (2) 「みのりプロジェクト」(学校教育充実事業)推進による学校教育の充実 **重点的事項⑥**
- (3) 豊かな学びを創造するコミュニティ・スクールの推進
- (4) 学習環境の整備充実と再編に伴う廃校となる校舎等の活用

(5) 子どもたちの学びに向き合う教職員を支援する働き方改革の推進

基本方向4 家庭・地域・学校が協働して子どもを育てる環境づくり

(1) 親の「学び」と「子育て」を支える環境づくり

(2) 地域と学校との協働による学校支援の仕組みづくり

重点的事項⑦

(3) 子どもたちの体験活動の推進

重点的事項⑧

(4) 家庭教育の充実

基本方向5 伝統・文化の尊重と国際理解を育む教育の推進

(1) 伝統・文化の尊重

(2) 国際理解を育む教育

重点的事項⑨

基本方向6 生涯にわたる学習・文化・スポーツ活動の推進

(1) 地域をつくる生涯学習・文化芸術の推進

(2) 文化財の保護と活用

(3) 生涯スポーツ社会の実現に向けた環境の充実

重点的事項⑩

基本方向7 防災教育をとおした命を守る意識の高揚

(1) 防災教育の推進、充実

重点的事項⑪

(2) 地域の自主防災訓練や町総合防災訓練への参加

(3) 震災遺構の活用

Ⅲ 点検及び評価の結果

1 教育委員会の活動について

山元町教育委員会は、山元町長が町議会の同意を得て任命した教育長及び4人の委員により組織される合議制の執行機関であり、その権限に属する教育に関する事務を管理執行しています。

平成28年10月1日からは、一部改正後の地教行法の規定に基づき、委員長と教育長を一本化した新教育長が任命され、事務を執行しています。(新制度)

教育委員会の会議は、毎月定例会を開催し(必要に応じて臨時会を開催)、教育行政に関する各種議案等の審議などを行います。

また、各小・中学校や社会教育施設の実情等を把握するとともに、学校経営・授業等に対し指導助言を行うため、学校や社会教育施設を訪問しています。

(1) 教育委員会委員

①令和3年4月1日から令和4年3月31日まで

職名	氏名	任期
教育長	菊池卓郎	平成28年10月1日～令和7年9月30日
教育長職務代理者	大内悦夫	平成24年4月1日～令和6年3月31日
委員	齋藤房江	平成26年10月1日～令和4年3月31日
委員	菅野正彦	平成29年7月1日～令和7年3月31日
委員	古泉可奈	平成31年4月1日～令和5年3月31日

(2) 定例会の開催について

区分	期日	付議事件等(主な審議事項を掲載)
第1回定例会	令和3年4月23日	①山元町学校運営協議会委員の委嘱について ②山元町社会教育委員の委嘱について ③山元町指定文化財茶室等整備・活用検討委員の委嘱について ④山元町奨学生緊急支援金給付事業実施要綱について
第2回定例会	令和3年5月25日	①指定校変更願について ②山元町教育振興基本計画策定委員の委嘱について ③山元町文化財保護委員会への諮問について
第3回定例会	令和3年6月24日	①山元町子どもの心のケアハウス事業実施要綱の一部を改正する告示について ②指定校変更願について ③町指定文化財「茶室」等の修復保存に向けたこれまでの取組の経緯と地震被害に伴う実施設計予算の執行休止について

第4回定例会	令和3年7月26日	①令和4年度使用教科用図書採択の承認について ②山元町教育委員会の後援等に関する取扱要綱について（新規） ③令和3年度教育功績者表彰候補者について ④一般職員の人事について
第5回定例会	令和3年8月26日	・報告案件のみ
第6回定例会	令和3年9月24日	①山元町立中学校再編準備委員会設置要綱を廃止する告示について
第7回定例会	令和3年10月25日	①山元町特別支援連携協議会委員の委嘱について
第8回定例会	令和3年11月25日	①山元町教育委員会に関する点検評価報告書について ②山元町健康スポーツ推進条例について ③山元町いじめ問題対策連絡協議会委員の委嘱について
第9回定例会	令和3年12月24日	①山元町立学校の管理に関する規則の一部を改正する規則について ②就学指定校変更願いについて ③県費負担職員の行政措置に関し議決を求めることについて
第10回定例会	令和4年1月26日	①山元町立小学校再編検討委員会設置要綱について（新規）
第11回定例会	令和4年2月10日	①県費負担職員の人事について ②令和4年度教育関係当初予算案に対する意見聴取について ③第2期山元町教育振興基本計画について ④山元町立小学校再編準備に向けた検討委員会設置要綱について（新規） ⑤山元町児童生徒就学援助実施要綱の一部を改正する告示について
第12回定例会	令和4年3月28日	①山元町教育相談員の委嘱について ②山元町文化財保護委員の委嘱について ③山元町地域学校協働活動コーディネーターの委嘱について ④山元町社会教育指導員の委嘱について

(3) 臨時会の開催について

区分	期日	付議事件等（主な審議事項を掲載）
第1回臨時会	令和3年5月27日	①山元町文化財保護委員会からの答申について
第2回臨時会	令和3年7月8日	①令和4年度使用教科用図書の採択計画書について

第3回臨時会	令和4年3月18日	①一般職員の人事について ②令和4年度山元町教育基本方針(案)について
--------	-----------	--

(4) 山元町総合教育会議の開催について

期 日	会 場	主 な 議 題 等	出席者
令和3年5月25日	山元町役場大会議室	①2学期制の検討について ②第2期山元町教育振興基本計画の策定について ③スポーツ健康にかかわる条例制定に向けた取組について	町長、教育長、教育委員4名
令和3年10月25日	山元町役場第2会議室	①小学校再編の進め方について ②第2期山元町教育振興基本計画の骨子案について ③町民体育館の機能回復に向けた判断と今後の見通しについて	町長、教育長、教育委員4名

山元町総合教育会議運営要綱の規程に基づき、町長と教育委員で構成された総合教育会議が5月と10月に開催されました。

(5) 教育委員の教育機関訪問

期 日	訪問先	主な内容等
令和3年6月25日	山下小学校 山下第一小学校	山下小学校(給食試食)、山下第一小学校 ・学校経営方針等説明・授業参観 ・意見交換等
令和3年8月26日	体育文化センター ふるさと伝承館 中央公民館	・施設の視察
令和3年11月25日	山元中学校	山元中学校(給食試食) ・学校経営方針等説明・授業参観 ・意見交換等
令和3年12月24日	おもだか館 少年の森 ふるさと伝承館 中央公民館	・現場説明・意見交換等
令和4年1月26日	山下第二小学校 坂元小学校	山下第二小学校(給食試食)、坂元小学校 ・学校経営方針等説明・授業参観 ・意見交換等

2 教育関係経費決算の状況

令和3年度決算額は、教育費7億2,041万円、前年度比48.9パーセントの減少でした。

主な増減理由については、小学校費で前年度の坂元小学校の校舎改修工事及びICT機器整備事業終了による減少、中学校費で前年度のICT機器整備事業終了による減少、社会教育費で震災遺構保存整備工事等完了による減少、町民グラウンド拡張・改修工事終了による減少、学校給保健体育費で前年度の給食室統合事業終了の減少となります。

○目的別決算の状況

(単位：千円、%)

区 分	令和3年度		令和2年度		増減額	増減率
	決算額	構成比	決算額	構成比		
教育総務費	107,062	14.9	158,047	11.2	-50,985	-32.3
小学校費	154,544	21.5	400,165	28.4	-245,621	-61.4
中学校費	120,522	16.7	228,697	16.2	-108,175	-47.3
幼稚園費	1,085	0.2	1,452	0.1	-367	-25.3
社会教育費	216,687	30.0	303,068	21.5	-86,381	-28.5
保健体育費	120,512	16.7	319,575	22.6	-199,063	-62.3
教育費 計	720,412	100.0	1,411,004	100.0	-690,592	-48.9

○性質別決算の状況

(単位：千円、%)

区 分	令和3年度		令和2年度		増減額	増減率
	決算額	構成比	決算額	構成比		
人件費	229,970	31.9	254,677	18.0	-24,707	-9.7
物件費	421,377	58.5	555,825	39.4	-134,448	-24.2
維持補修費	4,493	0.6	1,249	0.1	3,244	259.7
扶助費	25,005	3.5	22,039	1.6	2,966	13.5
補助費等	13,940	1.9	14,355	1.0	-415	-2.9
普通建設事業費	23,595	3.3	559,742	39.7	-536,147	-95.8
積立金	2,032	0.3	3,117	0.2	-1,085	-34.8
貸付金	0	0.0	0	0.0	0	0.0
教育費 計	720,412	100.0	1,411,004	100.0	-690,592	-48.9

3 学校教育の充実

(1) 小・中学校児童生徒数等について（5月1日現在）

令和3年度児童生徒数は、703人で前年度より17人の増加でした。

○小学校

(単位：組、人)

	令和3年度		令和2年度		増減	
	学級数	児童数	学級数	児童数	学級数	児童数
1年生	5	86	4	72	1	14
2年生	4	73	4	73	0	0
3年生	3	71	4	69	-1	2
4年生	4	69	4	66	0	3
5年生	4	66	4	66	0	0
6年生	4	66	4	70	0	-4
特別支援	8	15	7	13	1	2
計	32	446	31	429	1	17

○中学校

(単位：組、人)

	令和3年度		令和2年度		増減	
	学級数	生徒数	学級数	生徒数	学級数	生徒数
1年生	2	70	3	86	-1	-16
2年生	3	86	3	96	0	-10
3年生	3	97	3	68	0	29
特別支援	2	4	2	5	0	-1
計	10	257	11	255	-1	2

(2) 就学援助事業

経済的理由によって就学困難な生徒の保護者や震災により被災した児童生徒の保護者に対し、学校用品費等の援助を行うとともに、心身に障害のある生徒の保護者に対する援助を実施し、就学の奨励を図ったものです。

○要保護・準要保護就学援助事業

(単位：円)

区分	小学校		中学校	
	援助対象人数	援助額	援助対象人数	援助額
学用品費	46	506,869	27	613,710
新入学学用品費 (うち前倒し支給)	8 (6)	426,480 (324,360)	8 (0)	480,000 (0)
通学用品費	40	88,148	11	24,970
修学旅行費	3	9,210	7	148,071
校外活動費(宿泊有り)	25	29,286	16	82,000
校外活動費(宿泊無し)	8	167,503	-	-
給食費	45	2,211,851	27	1,200,397

医療券	0	0	—	2,549,148
計	—	3,439,347	27	613,710

○特別支援教育就学奨励事業

(単位:円)

区分 対象数・金額	小学校		中学校	
	援助対象人数	援助額	援助対象人数	援助額
学用品費	13	66,873	4	45,460
新入学学用品	2	51,060	2	60,000
通学用品費	11	11,634	2	2,270
修学旅行費	3	31,835	1	25,122
校外活動等参加費	6	5,023	2	6,210
給食費	13	300,742	4	113,885
計	—	467,167	—	252,947

○被災児童就学奨励事業

(単位:円)

区分 対象数・金額	小学校		中学校	
	援助対象人数	援助額	援助対象人数	援助額
学用品費	29	334,361	26	590,890
新入学学用品費 (うち前倒し支給)	2 (1)	105,120 (54,060)	10 (3)	600,000 (180,000)
通学用品費	24	54,480	16	36,320
修学旅行費	6	137,376	2	100,490
校外活動費(宿泊有り)	3	5,490	10	62,100
校外活動費(宿泊無し)	13	10,691	—	—
給食費	29	1,517,274	26	1,503,828
医療費	0	0	1	1,330
計	—	2,164,792	—	2,895,048

(3) 学校給食費補助事業

小・中学校に通学する2子以降の児童生徒の保護者に対し、学校給食費を補助することにより、多子世帯の経済的負担を軽減し子育て支援を推進するものです。

○学校給食費補助事業

(単位:円)

区分	小学校	中学校	計
対象者	159	18	177
補助金額	7,922,932	939,903	8,862,835

(4) 学校教育充実事業(みのりプロジェクト)

学校教育に係る現状の課題を踏まえ、今後の取り組みについての計画を策定し、児童生徒が将来、夢や志を持って社会で生き抜いていけるよう、教育活動の充実を図った。

- ・推進会議 3 回
- ・大学連携による研修会 4 回(仙台大学(スポーツの楽しさを伝える研修会 3 回)、尚絅学院大学(SDGs 研修会))
- ・専門部会(知育部会・徳育部会・体育部会)の活動

(5) 山元町いじめ問題対策連絡協議会について

いじめの防止等に関する機関及び団体の連携その他いじめの防止等のための対策を推進するために必要な事項に関し、連絡及び協議を行うため、協議会(書面)を開催しました。

なお、令和3年度における山元町のいじめの認知件数等は以下のとおりです。

○いじめ問題対策連絡協議会開催の概要

期 日	会 場	主 な 議 題 等
令和3年12月14日	山元町中央公民館2階会議室	1 令和2・令和3年度いじめ認知状況について 2 いじめ防止対策について①各団体のいじめ防止対策の取り組み状況について
令和4年3月14日	山元町中央公民館2階会議室	1 令和2・令和3年度いじめ認知状況について 2 いじめ防止対策について①各団体のいじめ防止対策の取り組み状況について

○山元町のいじめの認知件数

(令和4年3月31日現在)

学 校 名	学 年						計	状 況	
	1	2	3	4	5	6		継続指導中	解 消
坂元小学校			1		1	2	4	2	2
山下小学校	5	2					7	3	4
山下第一小学校					1		1		1
山下第二小学校									
山元中学校	3	2					5		5
計	8	4	1		2	2	17	5	12

(6) 子どもの心のケアハウス運営事業について

山元町立小中学校における不登校等の児童生徒及び保護者に対し、教育相談、生活相談、学習支援等を通して、不登校児童生徒の自立及び学校生活への自発的な復帰を促すことを目的とし、専任の担当職員を採用しケアハウスを運営する。

通所者数	4人	通所者内訳
相談件数	317件	中1男:0人 中1女:0
開所日数	228日	中2男:0人 中2女:2
		中3男:1人 中3女:1

(7) 教育振興基本計画策定事業

第1期計画が令和3年度で終了することから、住民アンケート調査を実施し、令和4年度から5年間の計画を策定した。

策定委員会外部委員8名 年間5回開催

(8) 学力調査実施事業

町独自で学力調査を行うことにより、学力向上を目的とした詳細な指導計画の策定や、日々の授業内容の改善を目的に実施しました。

○実施状況

項目	小学校	中学校
実施回数	年2回（1学期、3学期）	年2回（1学期、3学期）
実施学年	1年生～6年生 （1年生は3学期のみ実施）	1年生～3年生 （3年生は1学期のみ実施）
実施科目	国語、算数	国語、数学

(9) 子ども見守り隊活動支援事業

町内4小学校で結成されている子ども見守り隊に対し活動補助金を交付し、通学時の児童生徒の安全確保を図りました。

(10) 特別支援教育支援員・スクールサポートスタッフ配置

特別支援教育支援員を各校に配置し、小・中学校において障害のある児童生徒に対し、食事、排泄、教室の移動補助等学校における日常生活動作の介助、発達障害の児童生徒に対し学習活動上のサポートを行いました。

また、スクールサポートスタッフを各校に配置し、新型コロナウイルス対応のため教室の換気や消毒、家庭への配布物の印刷・帳合、子供の健康観察のとりまとめやデータ入力、電話対応など、感染症対策のために増加した教員の各種業務サポートを行いました。

学校名	特支	配置期間	スクサポ°	配置期間
山下小学校	3人	R3.4.1～ R4.3.31	1人	R3.4.1～ R4.3.31
山下第一小学校	1人		1人	
山下第二小学校	2人		1人	
坂元小学校	1人		1人	
山元中学校	3人		1人	
計	10人		5人	

(11) 奨学生緊急支援金給付事業

新型コロナウイルス感染症の影響等により、減収し経済的に困窮する奨学生76人に対し修学を援助するため緊急支援金の給付を行いました。

(12) 主な施設整備等の状況について

① 小・中学校校務支援システム導入事業

国が示す「GIGAスクール構想」を踏まえ、教員の長時間勤務を解消し、教育の質の維持向上を図るための具体的な解決策の1つとして、教職員のICT環境整備及び業務効率化のため小中学校に教務系（成績処理、出欠管理、時数管理等）、保健系（健康診断票、保健室来室管理等）、学籍系（指導要録等）、学校事務系などを統合した校務支援システムを導入しました。

② 小中学校 ICT 支援員配置事業

支援員は、教員の実務面に対して支援を行うため、授業計画の作成、ICT 機器の準備・操作、校務システムの活用などを通じ、日常的な教員の ICT 活用支援を行います。

(13) 学校給食の概要について

学校給食は、成長期にある児童生徒の心身の健全な発達のために、バランスのとれた栄養豊かな食事を提供することにより、健康の増進、体位の向上を図ることに加え、正しい食事のあり方や望ましい食習慣を身に着け、好ましい人間関係を育てるなど多様で豊かな教育的なねらいを持っています。

一方、不規則な食事や偏った食事内容、さらに家庭環境の変化など見過ごすことのできない問題等もみられることから様々な課題等にも対応してきました。

① 給食費の公会計化について

学校給食費の公会計化については、令和元年7月31日付け、文部科学省通知の「学校給食費等の徴収に関する公会計化等の推進について」に基づき、令和2年度から実施しています。令和2年度は、初年度ということから、徴収の主体を学校にお願いする形で行い今年度から本格実施しています。今年度は、町が口座振替等により年10回にわけて年間給食費を徴収する予定でしたが、金融機関との事務手続きが円滑に進まず、始まりが5月から7月にずれ込んでしまい、年8回（7月から翌年2月まで）にわけて保護者から直接給食費を徴収しています。

また、給食費の徴収にあたっては、山元町学校給食費徴収規則を定め、規則に基づき事務をすすめております。

② 調理食数

小学校4校：530食

中学校1校：300食 計830食（5月1日現在）

③ 給食の形態（完全給食）

米飯給食 週4回（月、火、木、金）

パン給食（麺給食併用） 週1回（水）

④ 給食運営の負担区分

町費負担 給食施設の維持管理経費、人件費、消耗品費等

保護者負担 小学校 291円（児童1人 1食あたりの食材費）

中学校 333円（生徒1人 1食あたりの食材費）

給食の単価については、平成26年2月の学校給食運営審議会で議論された結果、消費税率引き上げに伴う給食費の改定が行われ、平成26年度から小学校は8円、中学校は9円増額しました。令和2年度は据え置きですが、食材費の価格上昇に伴い、令和3年度から小学校13円、中学校14円増額改定しました。

⑤ 給食調理・給食運搬業務委託事業

・学校再編に伴う給食室の統合により、令和3年3月1日から令和6年7月31日までシダックス大新東ヒューマンサービス株式会社山元営業所に給食調理業務を委託し、山元中学校給食室で実施しています。

・給食運搬業務委託事業は、平成31年4月1日から令和6年3月31日まで、社会福祉法人山元町社会福祉協議会に委託し、コンテナ車による配送を行っています。配送先は、山元中学校から坂元小学校、山下第一小学校及び山下第二小学校です。

⑥ 給食調理等職員数

調理場	栄養士	栄養教諭	会計年度任用職員栄養士	調理業務委託 (シダックス大新東ヒューマンサービス株式会社)	計	備考
山元中学校		1名	1名	調理員12名	14名	

⑦ 特色ある事業

町内小・中学校では学校給食の意義や役割の理解、食を通じて地域等を理解することなど食文化の継承を図ること、自然の恵みの大切さなどを理解することを目的とする食育の活動を行っています。

また、新型コロナウイルス感染症の影響で消費が落ち込んでいる県産牛の消費拡大と食育推進を目的に、町内小中学校の給食で県産牛肉を使用した給食を11月と2月の2回提供しました。

⑧ 食材の放射性物質検査について

宮城県で実施してきた学校給食用食材の放射能サンプル測定の事業が令和2年度で終了しました。また、東日本大震災以降、本町において放射性物質検査を実施してきましたが、厚生労働省が定める基準値を超える放射性物質は検出されなかったことなどから、今年度から給食食材の放射性物質検査は実施していません。

⑨ 山元町立学校給食運営審議会の開催

期 日	会 場	主 な 議 題 等	備 考
令和4年2月18日	山元町役場 大会議室	1 令和3年度学校給食運営について	
		2 令和4年度学校給食運営について	

⑩ 自然災害、インフルエンザでの学校閉鎖時等の給食費の取扱いについて

学校閉鎖時等の給食回数の考え方とそれに伴う給食費については、昨年度まで、食材の発注の取り消しが間に合わず、一部または全食材が納入された場合には、給食費の返金はしないこととしておりましたが、給食費の公会計化に伴い、自然災害等による臨時休業の場合には、給食費を返金することとします。食材発注の取り消しが間に合わず、食材が納品された場合には、町が負担することとします。

・ 令和3年度の対応状況

年月日	事由	対象	対応
令和4年1月24日	臨時休業 (新型コロナウイルス 感染防止による)	山下小学校	給食費は徴収しない。 (町が負担)

⑪ 給食費の未納について

年度	未納金額	未納人数	未納世帯数
令和3年度	197,031円	7人	5世帯

4 生涯学習の推進

平成29年3月に策定した、山元町教育基本計画アクションプランに基づき、社会教育の活動推進、地域文化の保護と活用、並びに社会体育と生涯スポーツの振興を重点施策とし、併せて地域コミュニティの再構築を目的とした協働教育を推進するなど、住民主体による家庭、地域、学校等が一体となった協働によるまちづくりに取り組みました。

また、さらなる協働教育の連携強化を図るため、協働教育コーディネーターを引き続き配置し、事業を推進するとともに、住民や各種社会教育団体の生涯学習意欲の高まりに応えるため、生涯学習施設・社会体育施設の維持管理・利用調整等を行い、活動の支援を行いました。

(1) 家庭・地域・学校が協働して子どもを育てる環境づくり

① 親の「学び」と「子育て」を支える環境づくり

子育てに関するスキルの向上を図るため、子育て期間中の親と、支援を行う関係諸団体等に対し、有益な情報や学習機会を提供しました。

ア 子育てサポーターの養成

No.	事業名	日程	回数	参加者数	備考
1	子育てサポーター養成講座	6/8	1	1名	主催： 宮城県教育委員会 (みやぎらしい家庭教育支援基盤形成事業)
2	子育てサポーターリーダー養成講座	12/8	1	2名	主催： 宮城県教育委員会
3	県地域指導者養成講座	10/29～	1	各自動画を視聴	主催： 宮城県教育委員会
4	家庭教育支援チーム「つばめ」研修会	11/25	1	25名	「いのちの教室」 講師：マミーぱいぱい 岩佐あけみ氏

イ 家庭教育支援チームの活動支援

No.	情報紙名	会員	活動等
1	家庭教育支援チーム「つばめ」	33	毎月定例会（スタッフ会議、情報誌発行（年6回 各回600部）、家庭教育学級等支援

ウ 子育てサークルの活動支援

こどもセンターを主な活動の場とし、活動及び運営の補助を行いました。

No.	団体名	内容	活動日等
1	育児サークル「なかよし会」	親子共同保育	基本毎週木曜日 10家族

② 地域と学校との協働による学校支援の仕組みづくり

ア 地域学校協働本部の設置

地域学校協働本部の設置要綱及び山元町地域学校協働活動コーディネーター等設置要綱を平成30年3月に告示し、平成30年6月に3名のコーディネーターを委嘱し、令和元年度にはさらに1名のコーディネーターを増員し、現在4名で活動しています。要綱、平成30年4月1日施行

イ 地域人材を活用した学校教育活動の支援

小中学校の要望に応じて、協働教育コーディネーターを通じ、スポーツ推進委員や指導者、安全見守りボランティアの情報提供及び連絡調整を行い、協働教育の充実を図りました。

ウ 学校支援教育

No.	学校名	学年	時期	内 容	備 考
1	山下小	1・2	4/13	交通安全教室見守り	コーディネーター2名 生涯学習課1名
		5	通年	金管バンド指導	講師1名
		全	9月～	見守り活動	ボランティア26名
		全	6/10	体力運動能力テスト補助	スポーツ推進委員3名
		全	通年	読み聞かせボランティア	6名（年10回）
2	山一小	5・6	9月	合唱指導	講師1名
		6	9月	太鼓演奏指導	講師1名
		全	通年	読み聞かせボランティア	5名（年10回）
		全	10月～	見守り活動	ボランティア21名
3	山二小	全	通年	読み聞かせボランティア	8名（年10回）
		全	通年	見守り活動	ボランティア58名
4	坂元小	全	6/10	体力運動能力テスト補助	スポーツ推進委員3名
		3	6月～	りんごの学習指導	指導者1名（年5回）
		5	6月～	漁業の学習指導	指導者1名（年3回）
		5	6月～	いちごの学習指導	指導者1名（年4回）
		全	通年	読み聞かせボランティア	7名（年7回）
		全	通年	見守り活動	ボランティア37名
5	山下中	1	11/25	「命の教室」活動補助	ボランティア9名 職員2名
		1	12/14・ 21	浴衣着付け	ボランティア 延べ13名 統括コーディネーター1名 職員1名

エ 放課後子ども教室活動の充実

No.	事業名	期間	回数	登録者数	備考
1	はまっこキッズ (坂元小対象)	5/14 ～ 1/21	21	25名 (延べ462名)	会場： 坂元小学校 スタッフ数9名 (延べ105名)
2	みやまっこクラブ (山下小・山一小・ 山二小対象)	5/10 ～ 1/31	24	12名 (延べ216名)	会場： 山下第一小学校 スタッフ数5名 (延べ120名)
計				37名 (延べ678名)	

③ 子どもたちの体験活動の推進

ア 地域の教育資源(ヒト・モノ)を活用した世代間交流事業(やまもと楽校等)の実施

No.	事業名	期間	回数	参加者数	備考
1	親子で電子工作	12/15	1回	9名	会場：ひだまりホール 主催：PCN 仙台
2	子どもの笑顔元気ミュージカル	7月	中止※1		会場：ひだまりホール 主催：こどもミュージカルプロジェクト
3	子どもも大人も みんなで遊び隊	5月 8月			主催： 子どもも大人もみんな で遊び隊実行委員会 共催：山元町教育委員会
4	地域教育資源活性化事業 「やまもと楽校」	8月			主催：山元町教育委員会 協力：町内ボランティア
5	インリーダー研修会	3月			主催：YVC 虹
6	青年活動活性化事業 「ロビーミニコンサート」	1月 2月			主催：山元町教育委員会
7	ジュニア・リーダー 初級研修会 (小6～高2 対象)	3/19	中止※2		主催：山元町教育委員会 会場：ひだまりホール

※1 新型コロナウイルス感染拡大防止のため

※2 3月16日に発生した地震の影響

イ 社会教育関係団体等育成のための補助金

No.	団体名称	代表者名	金額(円)
1	山元町文化協会	山上 利昭	300,000
2	なかよし会	日野 詩織	13,000
3	山元ボランティアサークル虹	佐藤 彩朱	21,000
4	山元町青少年育成推進協議会	菊池 卓郎	70,000
5	すばらしいやまもとを創る協議会	星 忠三	70,000
合計			474,000

ウ 社会教育関係団体等育成のための事業参加負担金の助成

No.	団体名称	備考
1	ジュニア・リーダー上級研修会	中止※

※新型コロナウイルス感染拡大防止のため

エ 姉妹・友好都市シニアリーダー研修・交流会参加者に対する助成

No.	事業名	期間	回数	参加者数	備考
1	第24回姉妹・歴史友好都市シニアリーダー研修・交流会 (会場：柴田町)	7/28 ～ 7/30		中止※	主催：柴田町 共催：伊達市・新地町・ 亘理町・山元町

※新型コロナウイルス感染拡大防止のため

④ 家庭教育の充実

ア 家庭教育学級・幼児学級の開催

No.	事業名	期間	回数	参加者数	備考
1	家庭教育学級 ・幼児学級	6/9～ 3/4	8	延べ 144家庭 (209名)	・各小学校で2回開催 ・1回目：校長による学校の 取組や入学までの心構え等 を講話 ・2回目：入学説明会を開催 (保護者のみ)

イ 家庭教育講座の開催

No.	事業名	回数	参加者数	備考
1	家庭教育支援講座 「ちびっこひろばきらり☆」	6	延べ 58 家 庭 (120 名)	町内生涯学習施 設等で開催

(2) 生涯にわたる学習・文化・スポーツ活動の推進

① 地域をつくる生涯学習・文化芸術の推進

ア 町広報誌やホームページ等を通じ、関係機関・団体等が開催する展示会や発表会の情報を提供する。

No.	事業名	日程	回数	参加者数	備考
1	第44回町民文化祭	11月		中止※	主催： 山元町文化協会
2	第24回文化推進事業	11月		中止※	主催： 山元町文化協会

※新型コロナウイルス感染拡大防止のため

イ 国や県の事業（巡回小劇場等）を積極的に活用しました。

No.	事業名	日程	回数	参加者数	備考
1	宮城県巡回小劇場 「給食番長」 (山下第二小学校)	10/27	1	約120名	主催： 宮城県教育委員会 山元町教育委員会

② 文化財の保護と活用

ア 文化財保護委員5名を委嘱し、町文化財等に関する答申を行いました。

・文化財保護委員会 開催回数 2回

イ 指定文化財茶室等整備・活用検討委員会

検討委員8名を委嘱し、町指定文化財茶室・葦首城大手門・板倉等整備基本計画に係る検討を実施しました。

・指定文化財茶室等整備・活用検討委員会の開催 2回

ウ 町指定文化財に対する保護

No.	事業名	期間	請負者	金額	備考
1	山元町指定文化財「茶室」養生修繕業務	R3.9.8 ～ R3.9.10	山元町 建設職組合	45,980	茶室雨漏りのため
2	山元町茶室敷地内枯損木伐採業務	R4.2.8 ～ R4.3.25	有限会社 ウエジュウ 技建	258,500	「茶室」敷地内に立地するクロマツが立ち枯れたため

エ 埋蔵文化財の現地発掘調査実施箇所一覧

No.	遺跡名	行政区	調査原因	調査時期	備考
1	葦首城跡	下郷区	法面整備	R3.6	試掘
2	室原遺跡	高瀬区	資材置き場造成	R3.7	試掘
3	室原遺跡	高瀬区	機材置き場造成	R4.2	試掘

オ 復興交付金事業 埋蔵文化財整理業務実施遺跡一覧（主要遺跡）

No.	遺跡名	行政区	調査原因	業務内容
1	合戦原遺跡	合戦原区	防災集団移転等	出土品の整理 報告書作成
2	新田遺跡	浅生原区	県道拡張工事	報告書作成
3	小平館跡	小平区	宅地造成等	〃
4	谷原遺跡	山寺区	〃	〃
5	山下館跡	山下区	津波復興拠点整備事業	〃

※報告書作成作業の一部は引き続き令和4年度に実施

・発掘調査報告書印刷製本業務（その1）

請 負 者：株式会社 東北プリント

期 間：令和3年11月29日から令和4年3月18日まで

契 約 額：1,287,000円

・発掘調査報告書印刷製本業務（その2）※

請 負 者：今野印刷株式会社

当初契約期間：令和3年12月22日から令和4年3月31日まで

当初契約額：18,150,000円

変更期間：令和3年12月22日から令和4年6月30日まで

変更契約額：18,480,000円

備 考：令和4年度へ繰り越し

・合戦原遺跡出土金属製品保存処理業務委託

請 負 者：株式会社東都文化財保存研究所

当初契約期間：平成30年6月28日から令和3年3月26日まで

当初契約額：26,028,000円

変更期間：平成30年6月28日から令和3年12月24日まで

変更契約額：27,757,200円

前 払 金：8,000,000円

完 了 払：19,757,200円

備 考：平成30年度からの繰越事業

- ・合戦原遺跡等発掘調査報告書作成支援業務委託（その2）
 請 負 者：株式会社シン技術コンサル
 当初契約期間：令和2年6月23日から令和3年3月27日まで
 変 更 期 間：令和2年6月23日から令和3年12月24日まで
 契 約 額：8,580,000円
 備 考：令和2年度からの繰越事業

カ 有形文化財（絵図）の修復

下郷区の個人宅で発見され、町に寄贈された江戸時代坂本城に関する絵図の修復を業務委託により実施しました。

- ・亘理郡坂本要害屋敷惣絵図等修復業務（2 鋪）
 請 負 者：㈱修護
 期 間：令和2年8月14日から令和3年8月31日まで
 契 約 額：3,099,200円
 備 考：新型コロナウイルス感染拡大による修復時間の確保のため、期間を延長し、令和3年度に明許繰越措置としました。

キ 文化財包蔵地の環境整備

町内の遺跡に設置している標識について、経年劣化により更新が必要な標柱の建て替えや、町指定文化財茶室・大條氏御廟・中島館跡の草刈り等を実施し、環境整備に努めました。

- ・文化財標柱の更新等

No.	場 所	内 容	備 考
1	浅生原遺跡（浅生原）、入山遺跡（浅生原）	文化財標柱設置	2基

ク 山元町指定文化財「蓑首城跡」保全事業に対する補助金の交付

令和3年2月13日に発生した福島県沖を震源とする地震により、町指定文化財「蓑首城跡」の法面に被害が生じたことから「文化財の保全」及び「法面下部の町道の安全確保」をするため、山元町文化財保護に関する条例及び山元町補助金等交付規則等に基づき補助金の交付を行いました。

No.	申請者	金額（円）	備 考
1	坂元神社 宮司 鈴木 美智子	891,000円 (事業費：1,782,000円)	

ケ 団体への補助金の交付

No.	団体名称	代表者名	金額 (円)
1	坂元神楽保存会	阿部 清	20,000
2	坂元おけさ保存会	阿部美代子	20,000
3	中浜神楽保存会	高山 一男	20,000

③ 生涯スポーツ社会の実現に向けた環境の充実

ア 事業実施状況

No.	事業名	日程 期間	回数	参加者数	備考
1	トレーニング器具 取扱い講習会			中止※	会場：体育文化センター 指導者：スポーツ推進委員

※ 3月16日に発生した地震の影響

イ スポーツ競技者及び団体等への支援体制の整備

スポーツ団体への助成を行い、広くスポーツの推進を図るとともに、全国大会等へ出場する選手（団体・個人）に対し賞賜金を交付し、スポーツの振興を推進しました。

・社会体育関係団体への補助金の交付状況等

No.	団体名称	代表者名	金額 (円)
1	山元町体育協会	嶋田 博美	100,000
2	山元町ソフトボール協会	嶋田 博美	130,000
3	山元町グラウンドゴルフ協会	萩原 恭子	80,000
4	山元町パークゴルフ協会	青田 義久	130,000
5	山元町剣道協会	遠藤 寛	100,000
6	山元町バドミントン同好会	森 久一	100,000
7	山元町スポーツ少年団本部	菊地 康彦	110,000
8	山元剣道スポーツ少年団	佐山 崇	51,500
9	山下フレンズスポーツ少年団	阿部 正晴	37,000
10	坂元ファルコンスポーツ少年団	星 建二	35,500
11	山元町バスケットボール協会	永谷 健一	50,000
合 計			924,000

・地域スポーツレクリエーション補助金の交付状況等

No.	団体名称	金額 (円)
1	合戦原区	10,000
合 計		10,000

・賞賜金の交付状況

	区分	件数	金額 (円)	備 考
個人	全国大会出場	2 件	210,000	ソフトボール 1 件 (1 団体) バレーボール 1 件 (1 団体)
	東北大会出場	2 件	105,000	ソフトボール 1 件 (1 団体) バレーボール 1 件 (1 団体)
合 計		4 件	315,000	

④ 施設の利用状況

ア 社会教育施設の利用状況

No.	施設名	利用者数(人)	前年度 利用者数 (人)
1	中央公民館	8,494	16,429
2	勤労青少年ホーム	5,099	5,884
3	山下地域交流センター	44,763	28,517
4	坂元地域交流センター (坂元公民館)	24,509	13,789
5	深山山麓少年の森	20,439	18,826
6	歴史民俗資料館	986	758
7	ふるさと伝承館	408	1,795
8	震災遺構中浜小学校	13,774	15,354

イ 社会体育施設の利用状況

No.	施設名	利用者数(人)	前年度 利用者数 (人)
1	体育文化センター (武道館を含む)	932	7,376
2	町民グラウンド	2,674	656
3	山寺深山グラウンド	2,218	2,345
4	真庭グラウンド	1,647	207

(3) 防災教育を通じた命を守る意識の高揚

① 震災遺構の活用

ア 震災遺構としての整備・保存【旧中浜小学校震災遺構保存整備事業】

東日本大震災の脅威・教訓を風化させることなく伝承し、防災・減災の意識を向上させるため、震災により被災した中浜小学校を震災遺構として保存整備し、令和2年9月26日に内部公開を伴う施設として一般公開を開始しました。

2020年度のグッドデザイン・ベスト100、特別賞となるグッドフォーカス賞（防災・復興デザイン）をダブル受賞するなど見学体験の工夫が高く評価され、令和3年度末の入館者数は13,774人（日平均66人）、全体の4割強が県外から訪れています。

【関連工事】

- ・令和3年度 震災遺構中浜小学校管理棟污水配管修繕工事
受注者：仙建工業株式会社
工期：令和3年11月27日から令和4年3月25日まで
契約額：737,000円

【関連業務】

- ・令和3年度 震災遺構中浜小学校説明版製作設置業務委託
受注者：一般社団法人SSD
履行期間：令和3年5月28日から令和3年8月31日まで
契約額：563,200円
- ・令和3年度 震災遺構中浜小学校浄化槽管理業務委託
受注者：株式会社ヤマモト商事
履行期間：令和3年4月15日から令和4年3月31日まで
契約額：173,400円
- ・令和3年度 山元町公共施設消防設備等・防火対象物点検結果報告業務
受注者：株式会社櫻井防災
履行期間：令和3年6月29日から令和4年3月31日まで
契約額：74,800円
※企画財政課で一括契約
- ・令和3年度（債務）山元町公共施設警備業務委託
受注者：セコム株式会社岩沼営業所
履行期間：令和3年4月1日から令和6年3月31日まで
契約額：686,400円
※企画財政課で一括契約

- ・令和3年度震災遺構中浜小学校清掃業務委託
受注者：一般社団法人シルバー人材センター
履行期間：令和3年10月1日から令和4年3月31日まで
契約額：155,100円

【参考：観覧料等歳入内訳】

No.	項目	金額（円）
1	震災遺構中浜小学校観覧料	4,326,600
2	〃 ガイドブック等売上	451,840
3	語りべガイド料	750,000
合計		5,528,440

山元町教育委員会に関する点検評価報告書（評価表）

山元町教育振興基本計画（アクションプラン）

（令和3年度）

【山元町教育委員会】

山元町教育振興基本計画アクションプランに基づく点検評価表

基本方向1 学ぶ力と自立する力の育成

評価(達成度): A(90%~) B(70%~) C(40%~) D(40%未満) N(評価不能)

(1) 「志教育」の推進

項目	取組のねらい・概要	具体的な取組	令和3年度		担当課 学校等
			評価	成果と課題	
「志教育」 の推進	「志教育」を通して、児童生徒が人や社会と関わる中で社会性や勤労観を養い、自らの在り方や生き方について主体的に探求していけるよう、学校の取組について一層の推進・充実を図る。	「志教育」全体計画・年間指導計画の充実と志担当教諭を中心とした組織的・計画的な推進	B	志教育の視点を学校行事等に位置付け、実践した。しかし、今年度もコロナ禍で地域活動等がなく、社会の一員として自覚を持たせることが難しかった。	坂元小
			A	全体計画及び年間指導計画を基に、学校行事や特別活動に志教育の目標（かかわる・はたす・もとめる）を位置付け、実践してきた。	山下小
			A	栽培活動や防災関係の学習を年間計画に位置付けて取り組んだ。キャリアパスポートを活用して指導を行った。	山一小
			A	全体計画・年間指導計画を基に学習活動全体を深め、志シートを活用しながら、夢や憧れをふらませて活動を充実させている。年間を通じて「夢や志をもつ」ことに向けて、学習活動を結びつけられるように、校長講話・学校行事・各教科学習・特別活動などの指導を職員全体で取り組んでいる。	山二小
			A	年間指導計画を基に推進することができた。山元町内出身の職業人を招き、「夢志（ゆめ）教室」を開催できたことも良かった。	山元中
		「みやぎの先人集」等資料の効果的な活用	A	児童の実態に応じた資料を活用した。特に高学年は、先人の生き方を通じて考えさせるのに有効だった。	坂元小
			A	「みやぎの先人集」を主に道徳の時間で活用し、児童の実態に即した内容項目を選択して指導した。	山下小
			B	道徳の時間に、価値に関連する資料として活用した。	山一小
			A	「みやぎの先人集」を活用しながら、学年段階に応じて昔の人の志や努力に学び、自分達の生活に生かせるように活用している。	山二小
			B	先人の考えや生き方等について、特別の教科道徳で計画的に学ぶ機会を設定できた。	山元中

「志教育」の推進	「志教育」を通して、児童生徒が人や社会と関わる中で社会性や勤労観を養い、自らの在り方や生き方について主体的に探求していけるよう、学校の取組について一層の推進・充実を図る。	家庭・地域との連携、交流活動や体験活動等の推進	A	「坂元こども神楽」や「おけさ」の体験活動や発表を通して、地域の歴史や文化を継承してきた人々の願いや思いを学ぶことができた。	坂元小
			A	校外学習での見学や体験活動、学校支援ボランティアとの関わりを通して、感謝の気持ちや社会性を育むことができた。	山下小
			A	栽培活動や読み聞かせボランティアの方々と交流することで、社会性を育むことができた。	山一小
			A	地域との連携・家庭との連携を教育計画に明確に位置付け、多くの取組を通じて体験活動の充実を図っている。	山二小
			B	コロナ禍ではあったが、規模と内容を工夫して実施することができた。	山元中
		【その他の評価指標】「将来の夢や目標を持っている」「人の役に立つ人間になりたいと思う」と答えた児童生徒の割合（小5・中1）※「あてはまる」「どちらかといえばあてはまる」の合計		「将来の夢や目標を持っている」 小：90.3% 中：74.3% 「人の役に立つ人間になりたいと思う」 小：95.5% 中：98.6%	

(2) 基礎的な学力の定着と活用する力の伸長 **重点的事項①**

項目	取組のねらい・概要	具体的な取組	令和3年度		担当課 学校等
			評価	成果と課題	
教科指導力の向上	児童生徒に「分かる喜び」が実感できる授業を展開するため、校内研修や少人数指導等指導体制の充実を図る。	校内研修の充実に向けた研究主題の設定と研究主任を中心とした組織的・計画的な推進	A	全職員で課題を共有し、次の授業に生かそうと心掛けた。また、先輩教員が中心となり、若手教員の育成に当たった。	坂元小
			A	「自分の言葉で表現し、互いに高め合う児童の育成」を研究主題とし、全員1回の授業研究と協働による授業づくりを計画的に実施した。	山下小
			B	町内4小学校が同一主題で研究に取り組んだが、感染症の関係ですべての学校と連携することは難しかった。	山一小
			A	「自分の考えをもち、主体的に表現する児童の育成」を主題として、研究主任を中心に全職員が研究授業を計画的に実施し、模擬授業の事前検討で良く吟味したことで、授業づくりが深まった。	山二小
			A	「基礎・基本を身に付け、自ら考え、判断し表現する生徒の育成」を研究主題とし、協働による授業づくりを計画的に実施した。	山元中

教科指導力の向上	教員を対象に、指導力向上に向けた研修会等を開催する。	T Tによる指導、少人数指導等効果的な指導体制の充実	A	体育のT・T指導では、担任と共に児童の実態把握に努め、個に応じた指導を行うことができた。	坂元小
			B	算数の授業は少人数指導もしくはTTにより、習熟度に応じた指導をした。また、個別指導や複数人によるスキルタイムの補助を行った。	山下小
			A	T・T指導の体制は組めなかったが、町から配置された支援員や補助員が授業のサポートに入り、理解に時間が必要な児童に丁寧な指導をすることができた。	山一小
			A	加配を有効活用して、3学年以上の算数においては基本的に少人数指導としてT・Tや補充的・発展的な学習を行い、児童の実態に合わせた効果的な指導を実施した。	山二小
			B	当初数学の加配配置が間に合わず、2年生でのT・T指導や3年生での習熟度別少人数指導は実施できなかった。3学期に加配が来て実施できた。英語は予定どおり実施できた。	山元中
	教員を対象に、指導力向上に向けた研修会等を開催する。	指導力向上研修会等の開催（外部講師等による研修）	A	夏季休業中に全教職員を対象に教職員研修大会を実施した。宮城教育大学の野澤令照先生よりp4cに関する講演をいただいた。それをきっかけに各校で研修会を実施し、子供たちの表現力向上に努めることができた。	教育総務課
学力向上に向けた基本的な生活習慣や学習習慣の確立	町内全校共通の「3つの約束」を下敷き等にして児童生徒に配布・指導するとともに、保護者とも連携を図り、基本的な生活習慣・学習習慣を確立する。【28年度から】	改訂版の検討・作成	B	「3つの約束」について、校内だけでなく、町内の児童の実態調査を行い、結果に基づいた内容に改訂していく必要がある。	坂元小
			A	指導実践を振り返ることで、より活用しやすくなるよう改定に向け校内で検討した。	山下小
			A	「3つの約束」について児童・保護者を啓発し、大分定着してきた。学校評価において「3つの約束」についても評価し、その効果について検討した。	山一小
			A	「3つの約束」記入の下敷きが経年劣化しており、新たなバージョンで図案等更新し、改訂された。以前にも増して、日常的に話題にして活用されている。	山二小
			A	改訂版の検討・作成に積極的に関わることができた。	山元中

<p>学力向上に向けた基本的な生活習慣や学習習慣の確立</p>	<p>町内全校共通の「3つの約束」を下敷き等にして児童生徒に配布・指導するとともに、保護者とも連携を図り、基本的な生活習慣・学習習慣を確立する。【28年度から】</p>	改訂版の検討・作成	A	各学校で日常的な活用の徹底に努める。令和4年度に備えて教務主任者会で原稿を検討した上で改訂版を作成し、全児童・生徒分を準備した。	教育総務課
		児童生徒に対する適切かつ工夫した指導	A	4月当初に全職員で共通理解した。また、3つの約束を教室に掲示し、授業等で振り返りながら実践することができた。	坂元小
			A	各教室や階段に掲示するとともに、毎月はじめに活用状況について確認した。メディアコントロールチャレンジを児童主体の取組に切り替えた。	山下小
			A	全校児童が下敷きを使用することで、常に3つの約束を意識させた。	山一小
			A	児童会としてノーメディアデーの「山二の日（毎週月曜日）」を設定して実践している。各学年の平均をとると、9割以上の児童が守っている。また、その他の曜日にも、3つの約束に関わるアンケート結果を活用し、学級指導を通して課題の解決に向けた指導を深めてきた。	山二小
			A	全学年学級活動の時間で学校生活や家庭生活の見直しに「3つの約束」を活用した。	山元中
			A	学校だよりに掲載したり、学級懇談会で話題に取り上げたりするなど、継続的に保護者へ協力を呼び掛けた。	坂元小
		保護者への適切な啓発と連携	A	懇談会において、3つの約束の取組について保護者に説明して啓発を行い、メディアコントロールチャレンジを実施した。	山下小
			A	生活習慣やメディアの使い方についてアンケートを実施し、その結果を活用して懇談会等で啓発した。	山一小
			A	保護者に対しては、総会や懇談会において何度も説明し啓発活動を行った。児童の生活習慣・学習習慣の実態について具体的な様子を保護者と話し、連携が深まるようにしてきた。	山二小
			A	折に触れ、学校だよりや学年通信で「3つの約束」について触れてきた。	山元中

学力向上に向けた基本的な生活習慣や学習習慣の確立	児童生徒の基礎学力向上を図るため、放課後や夏季休業中等の学習支援を実施する。	補助事業を活用した外部指導者による学習支援（令和2年度から小学校でも実施）	A	夏季休業と放課後に実施した。算数の学習が主であったが、単に宿題の支援ではなく、児童に応じた補充・発展的な学習の場になるよう、工夫した。	坂元小
			A	「まなびの森」による算数授業支援と放課後算数教室を行った。	山下小
			A	「まなびの森」による夏季休業中の学習支援と、5年生を対象に放課後学習支援を実施し、児童の学習に対する意欲と理解が高まった。	山一小
			A	「まなびの森」の学習支援について小学校には夏期休業中の学習支援をお願いし、学習意欲定着など学力向上に向けた取組の1つとして役立った。	山二小
			A	放課後や長期休業期間に角田市の「学びの森」から学習支援があり学習機会の確保につながった。	山元中
			A	国の緊急スクールカウンセラー事業を活用し、中学校及び小学校の授業、放課後、長期休業中の学習支援を実施した。また、坂元地区・山下地区の地域交流センターで夜間の学習支援を実施した。	教育総務課
	家庭学習ノートを提出させるなど、学校としての具体的な取組について、指導の充実を図る。	日常的な指導と評価	A	本校の課題から、2年前より日記指導を家庭学習に取り入れている。継続してきたことで、書くことへの抵抗が減りなど、指導の効果が表れている。	坂元小
			A	家庭学習の手引きや学びの基本を活用して指導した。また自主学習の取組促進のため「KING OF 自主学習コーナー」にノートを掲示している。	山下小
			A	児童は毎日の家庭学習の取り組みを提出し、担任が点検した。発達段階に応じて自主学習にも取り組ませた。	山一小
			A	「家庭学習のすすめ」を示し、家庭学習の提出確認と担任評価を毎日実施した。ノーメディアデーの結果について翌日にできたかどうか調べ、児童会から校内公表して振り返りを継続できるようにしている。家庭での読書活動にも力を入れて指導を重ね、友達への読書紹介などの活動が増えつつある。	山二小

学力向上に向けた基本的な生活習慣や学習習慣の確立	家庭学習ノートを提出させるなど、学校としての具体的な取組について、指導の充実を図る。	日常的な指導と評価	B	家庭学習の提出は定着してきたが、学力向上につながる家庭学習が課題である。	山元中
		【その他の評価指標】「家庭学習時間（小6、中3：1時間以上）」「授業が分かる」と答える児童生徒の割合（小6・中3）「テレビゲームの時間（1時間以内）」		「家庭学習時間（小6：1時間以上 中3：1時間以上）」 小：62.1% 中：77.1% 「授業が分かる」と答える児童生徒の割合（小6・中3） 小：国語89.9% 算数86.3% 中：国語97.1% 数学97.2% 「テレビゲームの時間（1時間以内）」 小：30.3% 中：27.1%	

(3) 学校間、幼稚園・保育所・小学校の連携促進 **重点的事項②**

項目	取組のねらい・概要	具体的な取組	令和3年度		担当課 学校等
			評価	成果と課題	
学力向上に係る学校間の連携	各校の学力調査分析と活用（学力向上プラン）を町内全校で共有し、指導に生かす。	学力調査分析と活用（学力向上プラン）の作成と共有（研究主任者会）	A	町標準学力調査の結果から、各学年の成果と課題を明確にして指導することができた。	坂元小
			A	研究主任がリードして調査結果の分析と対応策を全職員で検討し、学力向上プラン作成に生かした。	山下小
			A	学力調査の結果を担当が分析し、全体で共通理解を図りながら指導に生かした。	山一小
			A	各校の調査結果を共有し、各調査の結果分析及び学力向上対策を示した学力向上プランを作成し、職員にも共有して指導に生かした。各校の学力向上策について情報交換し、自校の対策に生かせるようにできつつある。	山二小
			B	研究主任を中心に、調査結果を分析し、学力向上について検討を行った。	山元中
	授業参観や情報交換など、学力向上に向け小・中学校間の連携促進を図る。	指導主事訪問時の相互参観、小・中情報交換会等の実施	B	参観について町内の小学校に呼び掛けたが、コロナ禍で参加者が少なかった。それでも、他校職員の意見や感想を聞くことができ、参考となった。	坂元小
			A	オンラインでの交流会を計画し、小小連携を図ることができた。	山下小
			B	コロナ禍で制限のある中、可能な範囲で実施する事ができた。	山一小

学力向上に係る学校間の連携	授業参観や情報交換など、学力向上に向け小・中学校間の連携促進を図る。	指導主事訪問時の相互参観、小・中情報交換会等の実施	A	指導主事訪問時には各校に参観の案内を出し、少人数ではあったが相互参観が実施できた。情報交換は主任者レベルで行い、校内での授業づくりに大いに刺激となり、役立っている。	山二小
			B	コロナ禍のため、指導訪問時の相互参観は一部の実施のみだった。連サポの授業参観を研究主任が4回参加することができた。	山元中
幼保小の連携・交流の促進	幼稚園・保育所から小学校への円滑な接続を図れるよう、小学校就学前の幼児の情報を共有する。	家庭教育学級及び幼児学級の開催、就学予定児童に関する情報交換会の開催【H29～】	A	年3回の予定が、コロナ禍のため6月の1回となり、入学前の幼児理解を深めることが難しくなった。その分、幼保小相互参観・連絡会を一層大切にしたい。	坂元小
			A	幼児学級や情報交換会に基づき、入学前の幼児についての実態を把握することができた。	山下小
			A	幼児学級は1回しか実施できなかったが、小学校の様子を知らせる貴重な場となった。また、幼稚園・保育所との情報交換会を行うことで入学児童を円滑に引き継いでいる。	山一小
			A	家庭教育学級と並行して幼児学級を開催するなかで児童観察ができ、合わせて別に情報交換会も行えた。	山二小
			A	支援学校の教諭や就学予定校の教諭が、実際に幼児の活動の様子を、観察して共有することで、配慮すべき事項などを把握することができた。	生涯学習課
			A	家庭教育学級及び幼児学級についてコロナ禍ではあったが、幼児学級1回、家庭教育学級2回実施することができた。また、未就学児情報交換会は教育委員会主催で1回、各校主催で1回と年2回開催し、小学校への円滑な接続に努めた。	教育総務課
		幼保小相互参観、連絡会の開催	A	6月に本校新入学児童の授業参観と情報交換、2月に町内幼稚園・保育所に出向いての授業参観と情報交換を実施し、入学予定児童の理解を深めることができた。	坂元小
			A	連絡会の開催により情報共有が図られ、入学後の指導に役立てることができた。	山下小
			A	連絡会及びその後の施設見学等で詳しく児童の情報を得ることができている。	山一小
			A	年1回2月に授業公開と幼保小連絡会を実施するとともに、別日には学校から幼稚園保育所を参観した。	山二小

(4) 時代の要請に応えた教育の推進

項目	取組のねらい・概要	具体的な取組	令和3年度		担当課 学校等
			評価	成果と課題	
高度情報化 社会への対応	高度情報化社会への対応、校務の情報化、学力向上等を支援するため、学校におけるICT機器等の充実を図る。【28年度学校用PC更新】	次期更新時（H33予定）に向けたICT環境（タブレット端末）の検討・整備（MIYAGI Styleの検討）	A	令和2年度に町内小中学校において児童生徒1人1台のiPadを整備した。また、各学校の全ての普通教室及び一部の特別教室に電子黒板を整備した。	教育 総務課
		校舎及び体育館（避難所）等におけるWifi環境の整備	A	令和2年度に町内小中学校の校舎及び体育館にWifi環境を整備した。	
	情報活用能力の育成とともに、情報モラル教育を推進する。	各教科での指導の充実や「安全教室」の実施等	A	児童用タブレットと協働学習用ソフトウェアの利用が日常化され、分かりやすい授業づくりと深まりのある児童の意見交流が推進できた。情報モラル教育は指導を重ねる必要がある。	坂元小
			A	情報活用能力及び情報リテラシー教育を計画的系統的に位置付けて指導してきた。また全校児童にスマホケータイ安全教室を実施した。	山下小
			B	感染症の影響で外部講師は招聘できなかったが、各教科において情報の活用やモラルについて指導した。	山一小
			A	高学年を対象とした安全教室を実施し、保護者にもよびかけ一緒に参観できるようにした。情報モラルは中高学年の指導計画に明確に位置付け、情報モラルの考え方や態度が確実に身につくようにしている。	山二小
A	ICT支援員による授業支援の充実により、生徒と教師の情報活用能力を育成することができた。	山元中			
環境教育の 推進	自然豊かな町の特性を生かした体験活動等を通して、環境教育を推進する。	各教科での指導の充実及び地域体験活動の実施等	A	コロナ禍に配慮しながら、校内の緑化推進に努めた。また、支援団体と連携した防災教育を年間指導計画に位置付け、計画的に実践することができた。	坂元小
			A	生活科及び総合的な学習の時間に地域の自然や産業を取り入れた見学・体験活動を計画し実施した。	山下小
			B	学校北の農園で野菜を栽培したり、教材園で植物を育てたりする体験を通して、自然や環境に目を向けるようになってきている。	山一小

環境教育の推進	自然豊かな町の特性を生かした体験活動等を通して、環境教育を推進する。	各教科での指導の充実及び地域体験活動の実施等	A	防砂林再生グリーンベルトプロジェクトの方を招いての学習会や植樹体験、公園管理会の方を招いての地域緑化の学習会などを継続して実施している。	山二小
			B	コロナ禍のため、1学年の花山宿泊学習以外は自然体験活動や地域体験活動を実施することができなかった。理科や社会科等で自然環境に関する学習を実施した。	山元中

(5) 一人一人の教育的ニーズに応じた特別支援教育の推進

項目	取組のねらい・概要	具体的な取組	令和3年度		担当課 学校等
			評価	成果と課題	
特別支援教育の推進	将来的な自立や社会参加に向けて、発達障害を含め一人一人の発達段階や障害に配慮した校内支援体制等を構築する。	特別支援教育用教材の購入及び特別支援教育支援員の配置と活用	A	個別の指導計画等をもとに必要な教材を精選し、購入することができた。特別支援教育支援員については、支援の仕方等を定期的に話し合いながら、効果的に活用することができた。	坂元小
			A	特別支援教育支援員3名の配置により、児童のニーズに応じた個別支援を実践することができた。	山下小
			A	特別教育支援員を2名配置していただくことで、個別に配慮を要する児童へのきめ細かい支援ができています。	山一小
			A	特別支援教育支援員2名を配置していただき、児童の実態に応じた校内支援体制を整えられた。教育相談を受けている、課題のある児童に学年を超えて対応している。	山二小
			A	特別教育支援員を3人配置していただき、個人の特性に応じた支援をすることができた。	山元中
			A	各校の児童・生徒の実態に応じ、特別支援教育支援員を配置し校内支援体制を構築することで児童・生徒一人一人に寄り添った支援を充実することができた。	教育 総務課
		校内における指導・協力体制の確立、町内交流会の実施等	A	特別支援コーディネーターを中心とした支援体制を確立したことで、全職員が一丸となって気になる児童への早期発見、早期対応ができた。	坂元小
			A	特別支援コーディネーターを中心に支援体制が整備され、共有した情報に基づいて適切な指導・支援が行えるようになっている。	山下小

特別支援教育の推進	将来的な自立や社会参加に向けて、発達障害を含め一人一人の発達段階や障害に配慮した校内支援体制等を構築する。	校内における指導・協力体制の確立、町内交流会の実施等	A	特別支援コーディネーターを中心に指導・協力体制を確立した。必要に応じてケース会議を開催し、共有した情報を元に指導に当たった。	山一小
			A	協力学級での交流も十分に行えている。また、町内の特別支援交流会も充実した内容で計画的に行えた。	山二小
			A	特別支援コーディネーターを中心とした支援体制が整備され、ケース会議や全職員で共通理解をすることができた。	山元中
	地域における特別支援教育に関する相談・支援機能を持つ山元支援学校との連携・充実を図る。	特別支援教育連絡協議会、就学指導審議会等における協力	A	特別支援教育連絡協議会を年2回開催した。幼・保・小・中学校に対して、統一した様式での個別の教育支援計画の令和4年度導入に向け、年間スケジュールや記入の仕方について理解を得た。また、就学指導審議会（教育支援委員会に改名）については、11月に開催し、障害のある児童生徒の次年度の就学先について検討・決定し、学校及び保護者に通知した。	教育総務課
			A	配慮が必要な児童について情報を共有するとともに、関係機関から適切な指導助言を受けながら、事前に対応を考えることができた。	坂元小
			A	地域支援コーディネーターによる的確な観察及びそれに基づく指導助言は指導方法指導方法や指導體制を検討する上で大変参考となった。	山下小
			A	山元支援学校との連携により、地域支援コーディネーターから見立てや助言をもらうことで、具体的な支援を行えた。	山一小
			A	山元支援学校との連携により、必要な指導助言を受けることができつつある。数回の情報交換会で新たに課題が見えた幼児の情報を早めに伝えていただき、相談を早い時期に行えた。	山二小
			A	地域支援事業を活用し、支援学校のコーディネーターに参観してもらうことで、専門的な見地から幼児の様子を学校、教育委員会とで共有することができた。	生涯学習課
			A	山元支援学校の地域支援コーディネーターに、幼児学級や幼稚園・保育所の巡回訪問の際の観察・指導助言を依頼した。適切な助言をいただき指導や就学先決定に生かした。	教育総務課

特別支援教育の推進	地域における特別支援教育に関する相談・支援機能を持つ山元支援学校との連携・充実を図る。	日常的な相談、居住地校交流等による連携	A	山元支援学校の職員に対して、共生の心を育む授業やオンラインによる交流活動だけでなく、気になる児童への支援等について相談することができた。	坂元小
			A	日常的に教育相談等連携しやすい体制が整っている。居住地交流は紹介ボードとオンラインによるものとどめた。	山下小
			B	感染症の関係で直接の交流はできなかったが、オンラインや動画を活用しながら交流を行った。	山一小
			A	児童の居住地交流はないが、山元支援学校とは連携体制が整い、気軽に相談できる関係にある。	山二小
			B	コロナ禍で居住地校交流は実施できなかったが、発達障害に関する相談活動で連携が図られた。	山元中

山元町教育振興基本計画アクションプランに基づく点検評価表

基本方向2 豊かな人間性や社会性、健やかな身体の育成

(1) 感性豊かでたくましい心を持つ子どもの育成と支援 **重点的事項③**

項目	取組のねらい・概要	具体的な取組	令和3年度		担当課 学校等
			評価	成果と課題	
規範意識の醸成やコミュニケーション能力の育成	道徳教育、各教科等での指導、各種体験活動・文化活動等を通して、豊かな人間性や社会性を育てるとともに、特に規範意識、コミュニケーション能力の育成を図る。	「特別の教科 道徳」を中心とした道徳教育の改善・充実	A	別葉を活用し、他教科との関連を意識しながら指導をすることができた。	坂元小
			A	道徳ノートを活用することで、子供たちの振り返りの充実と記録を蓄積して評価に生かすようにした。	山下小
			A	年間指導計画及び別葉を元に、豊かな人間性を育成する指導を行った。	山一小
			A	個人ごとの道徳ノートを活用し、自分で考えたことや友達の意見を聞いて再考したことなど書くことを生かして道徳的な価値に迫る授業づくりに取り組んだ。指導者の話し合わせ方の工夫についてさらに研修を深めたい。評価への活用役に立った。	山二小
			A	年間指導計画に沿って、「特別の教科 道徳」の指導にあたった。改善があった部分について朱書きした。	山元中
		各教科等における指導の充実	B	規範意識やコミュニケーション能力が育ってきている。今後も改善を図りながら、継続的に指導をしていく。	坂元小
			A	学習規律の徹底を全ての教科・領域で取り組み、学習の効果を高めるようにした。	山下小
			A	各教科の学習の中でペアやグループによる話し合いの場を設定し、他者と考えを交流させることでコミュニケーション能力の育成を図った。	山一小
			A	体験を重視し、各教科のねらいをふまえながら言語活動の充実とコミュニケーション能力の育成を図った。	山二小
			A	学校教育活動全般にわたって指導することができ、規範意識の醸成やコミュニケーション能力の育成を果たすことができた。	山元中
		各種体験活動・文化活動（中学校は部活動も含む）等における指導の充実	B	社会科や総合的な学習の時間を中心に地域素材を年間指導計画に位置付けた。今後は継続、発展していく。	坂元小
			A	学年の発達段階や学習内容に応じた校外学習や体験活動、縦割り活動を計画し、志教育と連動させながらよりよい人間関係の構築に努めている。	山下小
			A	コロナ禍の中感染対策を講じながら、体験活動や縦割り活動を通してよりよい人間関係を構築した。	山一小

規範意識の醸成やコミュニケーション能力の育成	道徳教育、各教科等での指導、各種体験活動・文化活動等を通して、豊かな人間性や社会性を育てるとともに、特に規範意識、コミュニケーション能力の育成を図る。	各種体験活動・文化活動（中学校は部活動も含む）等における指導の充実	A	ねらいに沿って学校全体で共通行動をとり、体験活動が充実するよう工夫して指導にあたった。縦割り活動など異学年交流を深める活動を重視し、下級生への思いやりや上学年へのあこがれを醸成する場が充実するよう努めた。	山二小
			A	コロナ禍で活動が制限されることはあったが、与えられた環境下で感染症対策を講じて指導をすることができた。	山元中
いじめ、不登校等に対する教育相談活動の充実	いじめ・不登校等の問題に対応するための人的配置、関係機関との連携を含めた相談体制の整備と相談活動の充実を図る。	SC、SSW、町教育相談員の配置と相談活動	A	相談活動が円滑かつ活発に行われ、児童生徒の心のサポートが効果的に行われた。	教育総務課
		ケース会議、要保護対策連絡協議会、いじめ問題対策連絡協議会等の開催	A	要保護児童対策地域協議会を年3回開催し、要保護児童等への適切な支援を協議した。	子育て定推課
			A	年3回開催される要対協実務者会議に出席し情報共有を図った。いじめ問題対策連絡協議会は年2回実施し、いじめの状況について確認した。	教育総務課
		各学校における教育相談（定期的なアンケート調査の実施、二者・三者面談等）の充実	A	いじめ・不登校担当を中心に全職員でアンケートを分析、整理し、いじめの早期発見、早期対応をすることができた。	坂元小
			A	月1回の学校生活アンケート、QU調査によりいじめの早期発見や学級の実態把握を行い、指導に生かすことができた。	山下小
			A	学校生活アンケートとQU調査により児童の実態把握に努め、職員間で情報を共有して指導に当たった。	山一小
			A	学校生活アンケートといじめアンケート、QU調査によって児童の実態把握に努め、結果をすぐその日の指導に生かすよう徹底し、職員内共有をして、子どもの悩みの早期解消に役立った。不登校対応として、SSW・SCとの連携が課題の現れた児童・保護者との教育相談にすぐ取り入れられるよう密に連絡を取り指導に生かすことができてきた。令和4年度は、夏休みに全家庭の教育相談を実施し、さらに相談の機会を増やし充実させる。	山二小
			A	学校アンケートを始めとする各種アンケートを実施したり、相談活動を実施したりすることで、初期対応にしっかり取り組めた。	山元中

いじめ、不登校等に対する教育相談活動の充実	いじめ・不登校等の問題に対応するための人的配置、関係機関との連携を含めた相談体制の整備と相談活動の充実を図る。	【その他の評価指標】「自分にはよいところがあると思う」「学校には行くのは楽しい」と答えた児童生徒の割合(小5・中1)※「あてはまる」「どちらかといえばあてはまる」の計	「自分にはよいところがあると思う」小：89.4% 中：80.0% 「学校には行くのは楽しい」 小：89.4% 中：91.4%
-----------------------	---	---	---

(2) 健康な身体づくりと体力・運動能力の向上 **重点的事項④**

項目	取組のねらい・概要	具体的な取組	令和3年度		担当課 学校等
			評価	成果と課題	
身体づくり 及び体力・ 運動能力向 上に向けた 取組	授業や行事(中学校は部活動も含む)等を通して、身体づくりについての関心・意欲を高めるとともに、体力・運動能力の向上を図る。	保健体育の授業を中心とした指導の工夫	A	授業の導入時、補強運動を取り入れたことにより、昨年度よりも体力や運動能力が向上した。	坂元小
			A	3分間走を取り入れるなど、運動量を確保する工夫を行って指導に当たった。	山下小
			A	新体力テストの結果を基に実態を把握し、授業や業間運動などで体力の補強を図った。	山一小
			A	体力運動能力テストで課題となっている50m走向上に向け、体育の授業の中で、数分間縄跳びや長い距離を走る運動を継続して取り入れた指導を年間通して行い、一定の走力向上があった。	山二小
			A	新型コロナウイルス感染症対策を講じ活動内容を工夫して授業や部活動を実施することができた。	山元中
		運動会や持久走大会の実施など、体力・運動能力の向上につながる行事の工夫	A	運動会や持久走記録会に向けてめあてを持たせ、達成に向けて進んで運動に取り組む児童が増えた。	坂元小
			A	5月に運動会、10月に持久走記録会を実施した。	山下小
			A	持久走大会や業間マラソン、縄跳び運動を取り入れ、児童一人一人の体力の向上を図った。	山一小
			A	持久走大会及び業間マラソン、縄跳び活動などのイベントを行い児童が意欲をもって取り組める行事を行った。	山二小
			B	新型コロナウイルス感染症対策を講じて中体連関連行事を実施することができたことは良かった。	山元中
		業間を活用した全校一斉の取組など、授業・行事以外の取組の工夫(中学校は部活動も含む)	A	体力運動能力テストの結果を基に全職員で課題の把握と解決に向けた取組を話し合い、改善を図った。	坂元小
			A	業間にパワーアップタイム(3分間走)や縦割り活動で長縄跳びを行った。	山下小

身体づくり及び体力・運動能力向上に向けた取組	授業や行事（中学校は部活動も含む）等を通して、身体づくりについての関心・意欲を高めるとともに、体力・運動能力の向上を図る。	業間を活用した全校一斉の取組など、授業・行事以外の取組の工夫（中学校は部活動も含む）	A	毎週2回、業間マラソンを実施した。マラソンカードを活用することで体力の向上の意欲付けになった。	山一小	
			A	業間たてわり遊びや持久走大会と関連させた業間マラソンを実施した。	山二小	
			A	新型コロナウイルス感染症対策を講じた工夫ある部活動内容を各部実施することができた。	山元中	
	（中学校）地域人材を活用し運動部活動の充実を図る。	外部指導者の活用	令和3年度 宮城県小中学校 体力・運動能力調査 による 握力、長座体前屈、反復横跳び、20mシャトルラン、50m走、立ち幅跳び、ソフトボール投げ、のうち県平均を上回っているもの。 小 男子：握力、反復横跳び、20mシャトルラン、50m走、立ち幅跳び、ソフトボール投げ 小 女子：握力、反復横跳び、20mシャトルラン、50m走、立ち幅跳び、ソフトボール投げ 中 男子：（なし） 中 女子：反復横跳び、20mシャトルラン			
			A	仙台大学生による部活動支援は、競技力向上につながり良かった。	山元中	
			A	教員以外による部活動支援は、専門性を高める効果があり、部活動地域移行に向け推進する。	教育総務課	
スポーツを通じた心と体の育成	体育振興や健康増進を目的に、各競技団体やサークル活動の支援等を行い、生涯スポーツの充実を図る。	県スポーツ協会等が主催する各種大会等の情報提供	A	各種スポーツ団体に情報提供を行った。	生涯学習課	
		町広報誌やホームページ等を活用した活動紹介や会員募集の推進等	A	各種スポーツ団体の大会での実績等を広報へ掲載するとともに生涯学習だよりを通じて活動紹介や会員募集を行った。		
		スポーツ推進委員の派遣事業	A	出前教室として、小学校で行われる全国体力・運動能力調査の補助や放課後子ども教室、老人クラブ連合会への派遣を行った。		

(3) 食に関心を持ち、元気な子どもの育成

項目	取組のねらい・概要	具体的な取組	令和3年度		担当課 学校等
			評価	成果と課題	
食育の推進と充実	児童生徒が望ましい食習慣を身に付け、将来にわたって健康増進が図られるよう、学校給食や栄養教諭等を活用して、計画的に食育を推進する。	学校給食と各教科等との関連を図った指導の充実	A	食に関する指導を各教科等と関連した年間指導計画に位置付け、計画的に実践した。	坂元小
			A	食に関する年間指導計画を基に、各教科と関連させて食の重要性や食文化、感謝の心を育んできた。	山下小

食育の推進 と充実	児童生徒が望ましい食習慣を身に付け、将来にわたって健康増進が図られるよう、学校給食や栄養教諭等を活用して、計画的に食育を推進する。	学校給食と各教科等との関連を図った指導の充実	A	家庭科や学級活動の時間を中心に、望ましい食習慣や栄養バランスについて指導した。	山一小	
			A	望ましい食習慣を身に付け健康増進に役立つ食物の働きの理解を深めるため、各教科・学級活動・道徳などで学年の実態に合わせた指導を行った。	山二小	
			A	学校給食と家庭科や社会科・理科との関連を図りながら食育の指導を行った。	山元中	
		栄養教諭等と連携した計画的な指導の充実	A	栄養士作成の給食の食材に関する資料を基に、食の大切さについて学級活動や給食の時間を中心に指導することができた。	坂元小	
			B	給食委員会が給食メモを昼の放送で読み上げ、食への関心を高めることができた。	山下小	
			A	給食メモを使用したり、低学年に栄養指導をしたりすることで、児童の食育への関心を高めた。	山一小	
			A	栄養教諭を中学校から招き、各学年において食育の授業を行い、小学校での食育指導と関連させて充実を図った。	山二小	
			A	コロナ禍で限られた中でも、栄養教諭と家庭科教諭が連携して調理実習を行うことができた。	山元中	
		【その他の評価指標】「朝食を毎日食べてくる」と答えた児童生徒の割合（小5・中1）		小：90.9% 中：75.7%		
	地場産品や町の食文化に触れる機会を設け、子どもたちの食に対する関心・理解を深める。	学校給食への地元食材の積極的な導入	A	献立表の記載内容を基に、地元食材のPRや生産者の思いなどを給食時間の放送で全校児童に紹介している。	坂元小	
			A	積極的に地元食材を導入し、献立表に明記したりお昼の放送で紹介している。	山下小	
			B	栄養教諭からの地元食材のコメントを校内放送で伝えることで、関心を高めた。	山一小	
			A	栄養教諭からの地元食材等のコメントを校内放送を通じて児童に伝え、関心と理解を深めるようにした。地元産素材が少しずつ増え、話題にしている。	山二小	
			A	「給食だより」や「一口栄養メモ」で地元食材について触れてきたことにより、関心や理解を深めることができた。	山元中	
A			一部地元業者参入による地元野菜納入を積極的に推進した。また、地元の自然保全米も積極的に導入した。	教育 総務課		

食育の推進と充実	地場産品や町の食文化に触れる機会を設け、子どもたちの食に対する関心・理解を深める。	郷土料理体験の実施（小5 はらこめしづくり）	A	総合的な学習の時間に位置付け、実践している。コロナ禍で体験できなかったが、携わっている人々の思いや願いに触れ、関心を高めた。	坂元小
			A	町の食文化への関心を高め、食育やふるさと教育の観点からも非常に有意義であった。	山下小
			B	コロナ禍で調理こそできなかったが、郷土料理の学習は、地域文化理解や地域の方との交流という意味のある活動で今後も継続していきたい。	山一小
			A	「はらこめし作り」での郷土料理体験は地域の方に教えられ、地元の食文化を体験的に知る機会を予定していたが、コロナ禍で全部の体験はできなかった。しかし盛り付けの体験ができ、一部であるが貴重な体験として意義深かった。	山二小
			A	小5を対象に実施した。新型コロナウイルスのために、今年度は、調理実習をすることはできなかったが、食改の皆さんの調理の様子を観察したり、試食を行ったりすることで、地元の食材に興味関心を持ってもらうことができた。	教育総務課

(4) 心身の健康を保つ学校保健の充実

項目	取組のねらい・概要	具体的な取組	令和3年度		担当課 学校等
			評価	成果と課題	
学校保健の充実	学校保健計画に基づく児童生徒の健康保持増進、家庭や医療機関との連携による学校保健の充実を図る。	健康診断、環境衛生検査等の実施	A	養護教諭を中心に児童の健康状態を把握し、学校三師と連携して健康診断や環境衛生検査等を実施した。	坂元小
			A	コロナ禍により計画とは異なったが、健康診断、環境衛生検査等を実施することができた。	山下小
			A	学校保健計画に基付き計画的に実施できた。	山一小
			A	健康診断・環境衛生検査は完全実施。児童の虫歯、肥満について課題児童に個別指導と家庭への啓発を継続して行った。未処置率等が減少した。	山二小
			A	健康診断及び環境衛生検査を計画通り実施することができた。	山元中
			A	新型コロナウイルス感染症への対応を徹底しながら、関係機関と連絡をとり、定められた健診・検査を残すことなく行うことができた。	教育総務課

学校保健の 充実	学校保健計画に基づく児童生徒の健康保持増進、家庭や医療機関との連携による学校保健の充実を図る。	健康保持増進につながる日常的な指導、環境整備等	A	「家庭の日」を設定し、心身の健康をねらいとした取組を家庭や学校歯科医と連携しながら実施した。	坂元小
			A	虫歯予防に向けた日常的な歯磨き指導、肥満対策として対象児の継続的体重測定等に取り組んだ。	山下小
			A	感染症対策と合わせて、換気や手洗い・消毒など指導の徹底を図った。	山一小
			A	年間を通した「早寝早起き朝ごはん運動」、各学級で取り組む歯磨き活動の継続指導、コロナ禍に対応した十分な手指洗いを徹底して行うための実践指導など、日常指導の充実を図っている。	山二小
			A	健康診断の結果を受けて、病院での受診を促し、健康保持増進に努めた。	山元中
		保健だよりの発行等による家庭との連携	A	毎月、保健だよりや家族の日だよりを発行し、学校の様子や取組、家庭からの情報を紹介した。	坂元小
			A	毎月定期的に保健だよりを発行し、健康に関する情報発信を行うとともに、家庭への啓発を図った。	山下小
			A	毎月、保健だよりを発行し、保護者へ保険・衛生面での啓発を図った。	山一小
			A	保健だよりでは、毎月の保健目標に即したものを掲載し健康づくりに関して情報を積極的に発信した。コロナ禍の情報発信にも役立った。	山二小
			A	保健だよりを毎月発行し、健康保持増進に関する内容やコロナ禍での環境に関する内容について家庭への啓蒙を図った。	山元中
		学校保健会の開催等による学校医との連携	A	本校の健康課題や児童の体力等の課題を基に学校保健安全委員会で助言を受け、指導に生かした。	坂元小
			A	年間計画に基づく学校保健委員会を開催し、指導事項を教育活動に反映するよう努めた。	山下小
			A	年1回学校保健委員会を開催し、学校医から助言をいただき、学校の指導に生かしている。	山一小
			A	年1回ではあるが、学校保健会を開催して学校医の先生方から指導をいただき、学校保健指導に生かした。	山二小

学校保健の 充実	学校保健計画に基づく児童生徒の健康保持増進、家庭や医療機関との連携による学校保健の充実を図る。	学校保健会の開催等による学校医との連携	A	学校保健委員会を開催し、校医の先生方からの助言を基に学校保健指導に生かすことができた。	山元中
		【その他の評価指標】児童生徒の肥満率や虫歯の保有率の改善傾向	肥満率(軽度・中等度・高度肥満の合計の割合)： R1 小ー13.6% (男14.2%、女12.9%)、中ー26.7% (男15.4%、女12.9%) R2 小ー18.7% (男21.0%、女15.6%)、中ー15.8% (男18.1%、女13.5%) R3 小ー22.2% (男20.0%、女24.9%)、中ー15.3% (男16.6%、女13.6%) 虫歯保有率(未処置歯所有者数の割合)： R1 小ー11.4%、中ー26.7% R2 小ー8.9%、中ー30.0% R3 小ー6.3%、中ー24.1%		

山元町教育振興基本計画アクションプランに基づく点検評価表

基本方向3 信頼され魅力ある教育環境づくり

(1) 小・中学校再編による未来を拓く学校づくりの推進 **重点的事項⑤**

項目	取組のねらい・概要	具体的な取組	令和3年度		担当課 学校等
			評価	成果と課題	
小・中学校 再編	児童生徒数の減少による課題を踏まえ、児童生徒にとってよりよい学び(学校生活)ができるよう、小・中学校の再編に取り組む。	再編準備委員会(全体会・代表者会・各検討部会)の円滑な運営	N	小学校再編協議は令和4年度を予定している。	教育 総務課
		新設学校の適切な準備と魅力ある学校づくり	A	「融和と融合」を常に合い言葉に、新しい学校づくりを生徒・教師一丸となって取り組むことができた。	山元中
			A	初年度に問題ない意向が図られ、スクールバスの運行も順調に行われた。	教育 総務課
		伝統と校風の継承を目指す開校準備業務の推進	A	計画的に諸会議を重ね、両校の伝統と校風を生かす新設学校を開設することができた。	山元中
			A	両校それぞれの伝統と校風を円滑に新設校の中で融合できた。	教育 総務課
		再編業務の町民への周知とコンセンサスの醸成	A	学習参観日等で保護者へ周知をする機会を設けた。	坂元小
			A	保護者への情報提供と進行状況を周知した。	山下小
			N	学校再編について具体的な周知はしていない。	山一小
			N	小学校再編の説明会が教育総務課主催にて、今後予定されている。	山二小
			A	学校だよりやホームページ、町広報誌の協力により、町民へ新設中学校の取組について周知することができた。	山元中
N	小学校再編協議は令和4年度を予定している。	教育 総務課			

(2) 「みのりプロジェクト」(学校教育充実事業) 推進による学校教育の充実 **重点的事項⑥**

項目	取組のねらい・概要	具体的な取組	令和3年度		担当課 学校等
			評価	成果と課題	
学校教育の 充実	教育の方向性や取り組むべき課題について協議するとともに、知・徳・体の各領域における課題や改善策について検討し、町全体として学校教育の充実に取り組む。	推進会議および知育・徳育・体育各部会での課題の協議と改善策の推進	A	推進会議を3回実施し、各部会での取組の確認をしながら進めることができた。次年度からの第2期教育振興基本計画の基本的な考え方を協議し、策定の見通しをもつことができた。	教育 総務課
		知育・徳育・体育の各領域の教育活動の活性化	A	学力テストや運動能力テスト等の課題について、学校評議員や学校保健安全委員会から意見をいただき、改善に努めた。	坂元小
			A	重点努力事項「学力の向上」「豊かな心の育成」「体力の向上」それぞれに具体策を設定し、手立てを講じて実践に努めてきた。	山下小
			B	各部会の提案を職員間で共通理解し、各領域の教育活動を進めた。	山一小
			A	知徳体の実践の活性化は、学力向上・授業研修・いじめ不登校対策の強化・体力づくり・望ましい生活習慣づくりなどを、みのりプロジェクトの取組を反映させながら、各分野で充実を図れるようになってきた。	山二小
			A	各学校長がリーダーシップをとり、地域や児童生徒の実態に応じた事業を計画し取り組むことができた。	山元中
			A	各領域での実践を具体的に進めることで教育活動の充実を図ることができた。	教育 総務課
			A	本校の課題から、今年度も3つの約束の「スマホ・ゲームの約束」について重点的に取り上げ、保護者と連携しながら改善に努めた。	坂元小
		関係機関等(大学・幼保・保護者・地域)との連携・協力	A	協働型学校評価重点目標「確かな学力を身に付ける子供の育成」を設定し、学校・保護者・地域が一体となって取り組んだ。	山下小
			A	大学と連携し、P4Cや体育の研修を行い、実践に生かすことができた。	山一小

学校教育の充実	教育の方向性や取り組むべき課題について協議するとともに、知・徳・体の各領域における課題や改善策について検討し、町全体として学校教育の充実に取り組む。	関係機関等（大学・幼保・保護者・地域）との連携・協力	A	幼保・保護者・地域との連携については、年々連携強化の取り組みを重ねつつあり充実してきていると考える。大学との連携は各大学より講師としてご指導を受ける機会をいただき、指導に生かしている。	山二小
			A	地域から学校評議委員を選出し、教育の方向性や取り組むべき課題について話し合うことができた。	山元中
			B	3大学との連携等により、各種教員研修会（p4c研修会、コミュニティ・スクール研修会、運動の楽しさを伝えるための研修会、SDGs研修会）を開催できた。保護者・地域との連携ではコミュニティ・スクールを翌年度から導入予定の3小学校で準備を進め連携・協力の在り方を探った。	教育総務課

（3）豊かな学びを創造するコミュニティ・スクールの推進（重点的事項⑦と関連）

項目	取組のねらい・概要	具体的な取組	令和3年度		担当課 学校等
			評価	成果と課題	
学校運営等の自律的改善	学校と保護者・町民がともに知恵を出し合い、協働しながら学校づくりを進める。	学校運営協議会（コミュニティスクール）の設置と学校運営への反映	B	令和4年度の設置に向けて、委員の選定とともに教職員の理解を得るため、職員会議等で周知を図った。	坂元小
			A	学校運営協議会を設置し、各部会の活動や評価を学校運営に反映することができた。	山下小
			A	令和4年度の学校運営協議会設置に向け、準備会を行うとともに保護者への周知を行った。	山一小
			A	自校で学校運営協議会（コミュニティスクール）の設置ができるように、職員会議でその設置の概要を周知したり、校内の多くの協議会や委員会などの統廃合を行うために、必要なことはどんなことか検討し始めている。地域の協働活動をどう決めていくか、方法を探っている。	山二小
			N	令和5年度からのCS設置に向けての話題提供のみであった。	山元中

学校運営等の自律的改善	学校と保護者・町民がともに知恵を出し合い、協働しながら学校づくりを進める。	学校運営協議会（コミュニティスクール）の設置と学校運営への反映	A	小学校1校に協議会を設置、年間計画に基づき地域とともにある学校づくりを進めた。小学校では3校で設置準備を進めるとともに教員向け研修会を開催し理解を深めることができた。	教育総務課
		学校評価や学校関係者評価の充実	A	今年度も肯定的な評価だった。課題については、全職員で具体的な手立てを考え、克服に向けて組織で取り組んだ。	坂元小
			A	学校評価や学校関係者評価、保護者や児童アンケートを実施し、教育活動の改善を図ることができた。	山下小
			A	保護者に学校評価をアンケート形式で行い、学校運営の改善に生かした。	山一小
			A	学校評価の資料として保護者・児童へのアンケート調査を実施し、学校運営の改善に生かした。また集約結果をまとめて改善方策を周知し、学校運営への理解を得ながら協力頂けるように努めた。	山二小
			A	学校関係者アンケートや教職員による自己評価を基に次年度の教育課程を編成できた。	山元中
		学校評議員会の開催と学校運営等への反映	A	学校の現状や課題について情報を提供し、解決に向けた意見を求めた。また、随時学校運営に生かすことができた。	坂元小
			N	学校運営協議会が設置されたため。	山下小
			A	学校の重点的な取組を周知し、意見をいただき、学校運営に反映させた。	山一小
			A	コロナ禍で学校評議員会（サポート委員会）を年2回開催できなかったが、学校運営に関して個別に意見を求めて生かしてきた。	山二小
			A	旧山下中地区と旧坂元中地区から7名の学校評委員を任命し、学校運営について意見交換をすることができた。コロナ禍のため、1回のみ開催だった。（2回目は紙面）	山元中

学校運営等の自律的改善	地域人材を活用し、教育活動の充実を図る。	専門的知識や技能を有する地域人材の教育活動への積極的な活用	A	新型コロナウイルスの感染対策を講じながら、地域の方々と関わったり、講師を招聘したりして、積極的に地域人材の活用を図った。	坂元小
			A	コロナ禍であったが、鼓笛隊指導の外部講師や読み聞かせボランティアの活用を図り、学習効果を高めた。	山下小
			A	読み聞かせや農業ボランティア、太鼓の演奏指導など教育活動に地域の人材を活用した。	山一小
			A	読み聞かせボランティア・イチゴ農家・植林団体・民謡指導など、教育活動に多くの地域人材を活用できた。	山二小
			A	コロナ禍のため、積極的な活用はできなかった。本町出身の車椅子バスケットボール監督の講話は志教育にもつながり、有意義だった。	山元中

(4) 学習環境の整備充実と再編に伴い廃校となる校舎等の活用

項目	取組のねらい・概要	具体的な取組	令和3年度		担当課 学校等
			評価	成果と課題	
学校からの情報発信	開かれた魅力ある学校づくりを推進するため、積極的に情報を発信する。	学校だより、学校ホームページ等の充実と積極的な情報発信	A	毎月、学校だよりや安全だより等を発行したり、ホームページで活動の様子を紹介したりして、情報発信に努めた。	坂元小
			A	学校だより、保健だよりの定期的な発行、学校ブログによる情報発信をすることができた。	山下小
			A	学校便りを始め各種お便りやHP・メール等を活用して教育活動の様子を発信した。	山一小
			A	学校だよりを地域にも発信している。また、ホームページにも掲載している。ホームページの更新を適宜行ってきた。次年度に、利便性を良くした新たなホームページを作成するため準備を進めた。	山二小
			A	学校だよりや学年だより、その他様々な便りやHP、学校メールで情報発信に努めた。	山元中

学校からの 情報発信	開かれた魅力ある学校づくりを 推進するため、積極的に情報を 発信する。	学校行事やフリー参観等の実施による積 極的な学校公開	A	新型コロナウイルスの感染防止に配慮しながら、学校行 事や学習参観を通して、児童と教師、児童同士の関わり を見ていただいた。	坂元小
			A	学習参観や学校行事を通して、積極的に教育活動を公開 した。	山下小
			A	コロナ禍ではあったが、感染症対策を講じながら、ほぼ 予定通り行うことができた。	山一小
			A	積極的に学校を公開し、保護者のみならず地域にも理解 を得られるようにしている。コロナ禍に、感染防止対策 を十分に行って、運動会以外では、それぞれの行事や参 観をできる限り行った。	山二小
			A	新型コロナウイルス感染予防対策を講じて、全ての学校 行事を実施し、教育活動を公開できた。	山元中
【その他の評価指標】「学校の積極的な情報発信」に関する保護者の評価（学校評価アンケート等から）					
学校施設の 計画的な改 修	坂元小学校における大規模改修 工事を実施する。	平成31年度実施設計、令和3年度施工 （補助事業）	A	令和2年度に工事完成。	教育 総務課
	学校環境整備事業（学校敷地内 除草）を実施する。	シルバー人材センター（業務委託）によ る学校敷地内除草を年2回実施	A	各校2回ずつ学校敷地内除草を実施し、学校環境の改善 を行った。	
学校施設の 計画的な改 修	児童生徒の快適な学習環境を作 るため、計画的に校舎等の整備 改修を実施する。	学校長寿命化計画の策定	A	令和元年度に計画策定済み。計画に基づき改修を実施 中。	教育 総務課
		老朽化した校舎の改修及びエアコンの整 備・トイレ洋式化への切替（学校環境 改善交付金の活用）	A	令和元年度に全小中学校にエアコンを整備済み。 令和2年度に全学校トイレ様式化工事及び坂元小学校改 修工事を実施済。 令和3年度に山下第一小改修工事の設計業務を実施済。	

教材教具の充実	時代に即した学習教材等の充実を図る。	教科書採択に伴う指導書等の整備	A	昨年度教科書の改訂年度であり指導書を整備した。今年度については、学級増などの過不足に対応した。	教育総務課
		運動用具等の更新及び学校図書等の充実	B	運動用具等については、毎年、新年度予算編成に併せ、学校と調整を図り、整備に努めている。図書については、毎年クラス数に応じた予算を計上し、新刊購入費等に使用している。	
保護者の負担軽減	子育てしやすい環境整備を図るため、各種助成制度や補助金等の創設・拡充を検討し子育て世帯の負担軽減を図る。	入学児童生徒の就学援助（新入学学用品）の前倒し支給	B	就学援助の前倒し支給制度の案内を新入学児童生徒を対象に各戸配布したが、受給申請数は少なく、制度の周知方法について課題が残った。	教育総務課
		学校給食費の補助制度の検討・実施	B	災害とコロナによる臨時休業が発生したことにより給食費補助の戻入等の事務が生じた。支給方法は、年度末に1回で支給することとしたが戻入等が生じないよう支給時期について再度検討する必要がある。	
		奨学貸付金の検討（給付型・免除制度等）	N	検討の結果実施しないことになった。	
		小学校入学祝い金の支給	A	平成29年度から第3子以降の小学校入学児童の保護者へ30,000円を支給する事業を開始し、令和3年度は8人に支給した。	子育て定推課
廃校となる校舎等の活用	学校施設がもつ機能を最大限に生かした利活用を目指す。	機能を生かした効果的な利活用を図る。	N	有効な利活用には未だ至っていない。	教育総務課
		学校備品の効果的な活用を図る。	A	小学校で必要備品を搬出したことに加え、既設エアコンを山元中学校に移設使用することにより、効果的な活用を図った。	

(5) 子どもたちの学びに向き合う教職員を支援する働き方改革の推進

項目	取組のねらい・概要	具体的な取組	令和3年度		担当課 学校等
			評価	成果と課題	
教職員の健康管理と多忙解消	健康診断事業や勤務時間の把握等を通して、教職員の健康管理、適正勤務について指導支援する。	「山元町立小中学校における働き方改革に係る指針」の策定と運用	A	職員会議で周知し、業務の見直しや改善を図った。特に本校では、遅くとも18時30分には全職員が退勤するなど、効果が表れている。	坂元小

教職員の健康管理と多忙解消	健康診断事業や勤務時間の把握等を通して、教職員の健康管理、適正勤務について指導支援する。	「山元町立小中学校における働き方改革に係る指針」の策定と運用	B	勤務時間の適正な管理に努めた。また、年休が取得しやすい環境づくりに努めてきた。	山下小
			B	安全衛生委員会を開催し、話し合いの結果（定時退庁日の設定等）を職場環境改善に生かした。	山一小
			A	山元町の指針について、職員会議で共通理解を深め、主旨が徹底できるよう意識を高めて取り組んでいくことを確認している。	山二小
			B	職員の勤務時間に対する意識を改善し、効率的な業務への取組が課題である。	山元中
			A	校務支援システム及び出退勤管理システムの導入によりIT側面からサポートを行った。	教育総務課
		教職員に対する健康診断事業の実施	A	養護教諭を中心に、各種健診の周知や個別に健診等のサポートを行った。	坂元小
			A	養護教諭を中心に、各種健診の周知や再診の確実な受診を推進した。	山下小
			A	養護教諭を中心に各種検診について通知し、計画的に受診できた。	山一小
			A	町の健診や個人希望の健診など年度当初より可能な限り、必要性の高い年代毎の健診を意識して申し込むように共通理解している。	山二小
			A	養護教諭を中心に計画的に実施することができた。	山元中
	A		コロナ禍であり感染対策を十分行った上で教職員健診を実施した。ストレスチェックは規定の年2回実施し、職員自身の健康意識を向上を図ることができた。	教育総務課	
	健康管理対策実施要領に基づく在校時間の把握と指導（勤怠システムの導入と活用）	A	勤怠システムによる在校時間の把握や水曜日の定時退庁日、留守電運用等により、職員の心身の健康管理に努めた。	坂元小	
		A	勤務時間管理システムにより、勤務時間の把握と自己管理が可能となり、時間外勤務の縮減につながった。	山下小	

教職員の健康管理と多忙解消	健康管理対策実施要領に基づく在校時間の把握と指導（勤怠システムの導入と活用）	A	勤怠システムを活用し勤務時間を管理するとともに、必要に応じて管理職から指導・助言をおこなった。	山一小
		A	勤怠システムが導入され、以前より勤務時間の短縮を意識するようになってきている。水曜日の定時退庁日は5時を過ぎると全員退庁している。退庁時刻をさらに早められるよう、声掛けを行っている。在校時間の把握については、以前より短時間に集約できている。	山二小
		B	勤怠システムにより職員の在校時間を把握し、職員の心身の健康管理に努めた。また、月に1回定時退庁日を設定し、教職員の働き方に関する意識改善に努めてきた。	山元中
		B	勤怠システム導入により職員の在校時間を一覧で月単位で取得することができ、情報の把握を行った。	教育総務課
	労働安全衛生委員会の設置	A	年に3回開催し、職員の心身の健康や職場環境について話し合った。また、本会の内容を記録にまとめ、打合せ等で周知した。	坂元小
		A	労働安全委員会を3回開催し、協議された内容を全職員で共有して改善を図るよう努めた。	山下小
		A	校内での課題を話し合い、職場環境の改善を図った。	山一小
		B	労働安全衛生委員会での話し合いにおいて、健康で安全な勤務環境となるよう課題を話し合った。会議の時間軽減・事務の電子化・学校教育内容のスリム化などが話され、会議時間や事務電子化はできることをすぐ取り入れる方向で共通理解している。定時退庁についての工夫をさらに検討していく。	山二小
		A	職員の勤務状況について管理職等で情報を共有した。	山元中
	校務システム導入による効果的な校務運営	A	令和4年度から活用できるよう必要な準備を進めた。	坂元小
		A	学校独自に通信票や指導要録の電子化を行い、教員の負担軽減に努めた。町内統一の校務支援システム活用へ向け、準備を進めた。	山下小

教職員の健康管理と多忙解消	健康診断事業や勤務時間の把握等を通して、教職員の健康管理、適正勤務について指導支援する。	校務システム導入による効果的な校務運営	A	令和4年度からの活用が決定したので、準備を進めた。有効に活用していきたい。	山一小
			A	指導要録や通信票など、新学習指導要領に対応する様式を検討・作成し、活用できるようになった。	山二小
			A	令和4年度から活用できるよう必要な準備を進めた。	山元中
			A	令和3年度に統合型校務支援システムを導入済み。	教育総務課
		「山元町立中学校に係る部活動の方針」の遵守や部活動指導員の配置等による教員の過度な負担の是正	A	各部年間指導計画を作成し、生徒・職員の過度な負担是正が実施できた。	山元中
			A	各部年間指導計画を確認し、土日どちらかの休養を条件化することで過度な負担の是正の一助とした。	教育総務課
		留守番電話導入による教職員の時間外対応の削減	A	年度当初の保護者全体会で説明したり、学校だよりや保護者メールで定期的に周知したりしたことで、保護者の理解と協力を得ることができた。	坂元小
			A	留守番電話の導入により、時間外対応が減り、時間外勤務の短縮につながった。	山下小
	A		留守番電話を導入し、保護者に対応時間を周知しているが、時間外の電話があるのが現状である。	山一小	
	A		保護者と連絡を取るべき内容について、夜連絡が取れない場合に、規程の時刻になったら、翌朝に持ち越す区切りができたことが、とても良かった。早朝の電話も少なくなってきた。	山二小	
	B		留守番電話導入は効果的だったが、教育相談関係は時間外対応になることが多く、課題である。	山元中	
	A		留守番電話の導入により、時間外対応が減り、時間外勤務の短縮につながった。	教育総務課	
	行事や会議、業務等を見直し、多忙解消を図る。	学校給食費の集金方法の見直し	A	学校給食費等が公会計化され、職員の負担が大幅に軽減された。	坂元小
			A	全ての集金は口座振替となっており、集金方法についての問題はない。	山下小

教職員の健康管理と多忙解消	行事や会議、業務等を見直し、多忙解消を図る。	学校給食費の集金方法の見直し	A	給食費が公会計となり、集金業務の負担が減った。	山一小	
			A	給食が公会計になり、集金と支払いの2種類の業務について、負担軽減に大いに役立った。	山二小	
			A	町で給食費の徴収を実施することにより担当事務職員の負担軽減となった。	山元中	
			B	令和3年度から本格的に公会計化が始まり、口座振替が実施されたが初年度ということもあり体制が整っていなかった。結果として、未納者に対する督促方法など課題が残ったため学校事務職員と打合せを重ね良い方法を探っていきたい。	教育総務課	
	行事や会議等の精選及び業務の効率化			A	資料等による連絡と協議すべき内容を分けたり、担当者を中心に内容を事前に精選したりしたことで、効率的に話し合うことができた。	坂元小
				A	学校行事、会議の精選と内容や運営の見直しを行い、時間短縮に努めることができた。	山下小
				A	内容と時間を精選し、会議の効率化を図った。	山一小
				A	会議については、長くても1時間程度を目標に、スケジュールを計画し、1人何分まで、意識するようにしている。行事等のスリム化について、アフターコロナの視点も含め、出来ることを年間ベースで検討精査した。	山二小
				B	行事や会議は精選されたが、多忙解消を図るための業務内容の見直しが課題である。	山元中
				A	今年度も共同実施における共通認識の共有や各学校の事務処理の同一を目的に運営され、各校取りまとめられた一律質問に回答するなど効率化が図られた。	教育総務課
学校事務共同実施の推進	共同実施の推進・充実により、教員の負担軽減、学校事務の効率化、学校運営支援を図る。	学校事務の共同実施に係る指導支援	A			

学校事務共同実施の推進	共同実施の推進・充実により、教員の負担軽減、学校事務の効率化、学校運営支援を図る。	各校における共同実施に関する理解促進と協働体制の確立	A	今年度も共同実施における共通認識の共有や各学校の事務処理が同一歩調で進めることで、効率的で円滑な学校運営が図られた。	坂元小
			A	学校事務支援室が効率的に運営されており、情報の共有化が図られたことで、事務負担の軽減につながっている。	山下小
			A	共同実施が定期的に行われることで、効果的な学校事務の執行ができた。	山一小
			A	共同実施で話し合われた内容のエキスを、事務担当者より職員会議及び打合せで周知し、校内ですぐに反映できるように、理解促進や協働体制を意識化している。	山二小
			A	事務共同実施が計画的に推進されたことにより、学校事務がより適切で効率的になった。	山元中

山元町教育振興基本計画アクションプランに基づく点検評価表

基本方向4 家庭・地域・学校が協働して子どもを育てる環境づくり

(1) 親の「学び」と「子育て」を支える環境づくり

項目	取組のねらい・概要	具体的な取組	令和3年度		担当課 学校等
			評価	成果と課題	
親の「学び」と「子育て」の支援	子育てに関するスキルの向上を図るため、子育て期間中の親と、支援を行う関係諸団体等に対し、有益な情報や学習機会を提供する。	子育てサポーターの養成	B	子育てサポーターリーダー、子育てサポーター養成講座に1名が参加して研鑽を積んだ。他のメンバーについても可能な講習に参加した。より良い活動にするため、若年層の人々を勧誘しながら研修を促していく。	生涯学習課
			A	町として、「NPO法人子育てひろば夢ふうせん」の活動を支援した。	子育て定推課
		家庭教育支援チームの活動支援	A	定例会、研修会の実施補助などを行い、新型コロナウイルス感染症に配慮しながら環境整備や各機関との連絡調整などを行い、一定の工夫をしながら活動を促すことができた。	生涯学習課
			B	こどもセンターを中心とした活動拠点の維持管理に努めた。	子育て定推課
		子育てサークルの活動支援	B	自主的な活動の展開という意識を念頭に置き、活動支援にあたってきた。メンバー同士や幼児のより良い交流の場になるよう引き続き支援していく。	生涯学習課
			B	こどもセンターを中心とした活動拠点の維持管理に努めた。	子育て定推課

(2) 地域と学校との協働による学校支援の仕組みづくり **重点的事項⑦**

項目	取組のねらい・概要	具体的な取組	令和3年度		担当課 学校等
			評価	成果と課題	
地域学校協働本部の設置・運営と地域学校協働活動の推進	地域学校協働本部を設置し、地域学校協働活動を推進することにより、地域と一体となった協働教育の充実を図る。	地域学校協働本部の設置に向けた要綱の作成、人材の確保、本部の組織化と運営	B	新型コロナウイルス感染症の影響もあり、地域学校協働本部の打合せを各学校で行うことはしなかった。学校から要望を吸い上げるよう連絡を取り合う場面を意図的に増やしたが、活用が難しい状況が続いた。	生涯学習課
		地域人材を活用した学校教育活動の支援	B	コロナ禍のため、地域人材との交流を積極的に推進できなかったが、ボランティアによる読み聞かせを実施し、児童の読書への興味関心を高めることができた。	坂元小

地域学校協働本部の設置・運営と地域学校協働活動の推進	地域学校協働本部を設置し、地域学校協働活動を推進することにより、地域と一体となった協働教育の充実を図る。	地域人材を活用した学校教育活動の支援	A	協働教育コーディネーターの支援により、地域人材を活用した教育活動が展開できた。	山下小
			A	子ども見守り隊、読み聞かせ、農業ボランティアなど、地域の人材を有効に活用しながら支援を得た。	山一小
			A	読み聞かせボランティア・イチゴや稲作農家・民謡講師など、協働教育として多くの地域人材の方に支援をしていただき、学習が充実した。	山二小
			N	地域学校協働本部を設置していない。令和5年度からである。	山元中
			B	コロナ禍のため、学校からの支援の要望が少なくなっているが、コーディネーターやボランティアの方々に協力をもらい、各学校で必要としている支援要請に応えることが出来た。	生涯学習課
	放課後子ども教室などの活動を通じ、児童生徒の人間形成を図る。	放課後子ども教室活動の充実	A	コロナ禍の中、安心して活動できるよう工夫を行い、スタッフの理解や協力のもとに、放課後子ども教室（はまっこキッズ19回、みやまっこクラブ16回）を開催した。子どもたちが興味を持てる体験的な活動を計画し、高い出席率を得た。	生涯学習課

(3) 子どもたちの体験活動の推進 **重点的事項⑧**

項目	取組のねらい・概要	具体的な取組	令和3年度		担当課 学校等
			評価	成果と課題	
地域を知り、地域と交流する体験活動の推進	子どもたちの学習・社会活動を充実させるため、地域の教育資源を活用しながら、次世代を担う地域リーダーの育成、地域コミュニティとの連携強化、世代間交流の推進を図る。	地域の教育資源（ヒト・モノ）を活用した世代間交流事業（やまもと楽校等）の実施	B	世代間交流事業のチラシ配付などは行ったが、コロナ禍のため、世代間交流事業への参加を積極的に呼び掛けることはしなかった。	坂元小
			N	令和3年度は実施せず。	山下小
			A	放課後子ども教室では、地域の方々と関わりをもちながら楽しく活動できていた。	山一小
			A	生活科などにおけるおじいさんおばあさんを招く祖父母学級、お米やイチゴを栽培するおじいさんおばあさんから作物を育てるお話を聞く活動等を実施した。	山二小
			N	コロナ禍のため実施できなかった。	山元中
			B	ジュニアリーダーの定例会や研修などを行い、地域活動に関わる中高生の人材育成を行った。引き続き活躍の場を提供し支援していく。	生涯学習課

地域を知り、地域と交流する体験活動の推進	子どもたちの学習・社会活動を充実させるため、地域の教育資源を活用しながら、次世代を担う地域リーダーの育成、地域コミュニティとの連携強化、世代間交流の推進を図る。	地域の教育資源（ヒト・モノ）を活用した学校と地域との協働による児童生徒への指導	A	総合的な学習の時間では、新型コロナウイルス感染防止に配慮しながら、神楽、いちご農家、りんご農家など、地域の方々に講師を依頼し、学習を進めることができた。	坂元小
			A	生活科での町探検や、総合的な学習の時間での地域の産業、郷土の開発についての学習、防災教育などに取り組んだ。	山下小
			A	野菜作り、読み聞かせ、和太鼓指導、郷土料理の学習など、多くの地域の方に支援をいただいている。	山一小
			A	読み聞かせボランティア、はらこ飯の調理実習ボランティア、公園清掃活動など、町の生涯学習課や地域学校協働本部にお世話頂いた学習活動がたくさんあり、児童への指導が充実した。	山二小
			N	コロナ禍のため実施できなかった。	山元中
		A	地域人材の専門性を生かし、体験的な活動や実際の現場の方の講話等豊かな活動を行うことが出来た。	生涯学習課	
		県事業（みやぎ県民大学等）を活用した青年活動の活性化支援	B	県主催の青年文化祭の実行委員に本町から3名が参加した。コロナ禍のため配信を活用した事業展開になったが、青年活動の活性化のため支援を行った。	生涯学習課

(4) 家庭教育の充実

項目	取組のねらい・概要	具体的な取組	令和3年度		担当課 学校等
			評価	成果と課題	
基礎学力の定着	「山元の子ども3つの約束」の活用 「家庭学習の手引き」の共有と家庭学習の充実を図る 「はやね・はやおき・あさごはんがんばりカード」を使用した児童と保護者への啓発活動を行う。	基本方向1に記載	A	「3つの約束」下敷き等の児童・生徒配付と共に、学習規律リーフレット「学びの基本」の活用を図りながら、町内統一して学習習慣を養う指導を進めた。基本的な生活習慣と家庭学習の大切さを啓発する「3つの約束」保護者向けパンフレットを改訂作業を行った。	教育総務課
家庭教育推進事業	協働教育の一環として、家庭教育学級や家庭教育関連事業の充実を図るとともに、親子のふれあいの機会を拡充し、家庭と地域、学校、行政が一体となって家庭教育の活性化に努める。	家庭教育学級・幼児学級の開催	A	年3回の予定であったが、コロナ禍のため2回となった。そこで、保護者間の交流を図れなかったが、保護者に小学校生活や小学生の発達段階の理解を得ることができた。	坂元小
			A	家庭教育学級、幼児学級を開催し、入学に際しての不安の解消と、家庭教育の充実にも寄与することができた。	山下小

家庭教育推進事業	協働教育の一環として、家庭教育学級や家庭教育関連事業の充実を図るとともに、親子のふれあいの機会を拡充し、家庭と地域、学校、行政が一体となって家庭教育の活性化に努める。	家庭教育学級・幼児学級の開催	A	児童のスタートプログラム及び保護者の学校教育への理解を得る上で有効である。	山一小
			A	コロナ禍ながら工夫をし、幼児学級の中で、学校で遊んだり、絵を描いたり、家庭教育から学校教育につなぐ話をもてたりしたことは、地域・家庭・学校が協働で家庭教育を活性化させることができた取組であった。	山二小
			A	入学説明会で保護者対象の情報モラル講座を実施した。	山元中
			A	就学予定の保護者を対象に家庭教育学級を行うことで、子どもの成長に対する理解をより深め、より良い関係のあり方や、周囲とのかかわり方について考える機会につながった。	生涯学習課
		家庭教育講座の開催	A	月1回程度、様々なテーマで「ちびっこひろばきらり☆」を開催し、家庭教育の充実を図ることができた。	生涯学習課
		親子ふれあい事業の開催	N	親子料理教室を実施予定だったが、新型コロナウイルスの感染拡大を防止する観点から事業を中止とした。	

基本方向5 伝統・文化の尊重と国際理解を育む教育の推進

(1) 伝統・文化の尊重

項目	取組のねらい・概要	具体的な取組	令和3年度		担当課 学校等
			評価	成果と課題	
歴史や伝 統・文化の 理解と尊重	郷土に対する誇りや愛着を育む ため、地域に伝承する文化財等 に触れ親しむ機会を提供する。	各教科等での指導を通した日本の歴史や 文化を尊重する態度の育成	B	主に社会科や生活科の校外学習等を通して、いろいろな 地域に住む人々の生活や文化の違い、地域の結び付きに 気付くことができた。	坂元小
			A	主に高学年社会科において、学習指導要領のねらいに基 づいた指導を展開し、自国の文化を尊重する態度と、地 域を大切にしようとする心情を高めることができた。	山下小
			A	主に社会科や国語科において、母国語や自国の歴史、社 会の仕組みを学ぶことで、自国の文化を尊重する態度を 育成した。	山一小
			A	社会では町内の施設を見学し、「郷土を拓く」の学習で 地域の先人の功績について学ぶ。また地域の産業や歴 史、震災復興の軌跡などを学んだ。	山二小
			B	主に社会科で短い時間ではあるが、地域産業や歴史、震 災復興について指導した。	山元中
		(小学校) 社会科副読本の改訂版作成と 配布、活用	A	今年度も年間指導計画と関連させ、地域素材を学ぶ際に 活用した。今後は、更に見直しを図っていきたい。	坂元小
			A	主に中学年において活用を図り、地域の実情に合わせた 副読本を教科書と併用して指導の効果を高めることがで きた。	山下小
			A	主に社会科の授業で活用し、地域の様子や歴史を学ぶ学 習で活用している。	山一小
			A	改訂委員会の皆さんにより、令和元年度時点の山元町の よさや歴史、震災と復興などを充実した内容で改訂して 頂いた。令和3年度にもより活用され、震災後の土地や 施設の様子がよく分かり大いに役立っている。	山二小
			A	改訂版が完成し、小学校3学年児童に配付した。各学校 で活用を進め、郷土についての歴史や文化等の学習に役 立っている。	教育 総務課

歴史や伝統・文化の理解と尊重	郷土に対する誇りや愛着を育むため、地域に伝承する文化財等に触れ親しむ機会を提供する。	歴史民俗資料館に収蔵されている地域の歴史資料等を活用した歴史授業の実施	A	3学年の学習内容と関連付け、実施した。その中でも線刻壁画の見学は、地域の歴史に触れるよい機会だった。	坂元小
			N	コロナ禍により実施せず。	山下小
			N	改装中のため利用していない。	山一小
			A	線刻壁画の収蔵により歴史の学習としてより活用しやすくなった。「センコくん」のキャラクターが楽しく、子供たちが興味を持って歴史学習に取り組んでいる。	山二小
			N	利用していない。	山元中
			A	前年度から引き続き、歴史授業の一環として、町内小学生等を対象とした資料館展示品の見学・学習会を開催し、ふるさとの歴史学習や学芸員の仕事を学んだ。	生涯学習課
		神楽や太鼓など、地域に受け継がれている無形文化財を活用した授業等の実施	A	「こどもおけさ」や「坂元こども神楽」の伝承を通して地域の方々の思いや願いを知るとともに、学習発表会で披露したり、県外の学校とオンラインで交流したりした。	坂元小
			N	活用なし。	山下小
			A	地域の伝統芸能は実施していないが、地域の方から指導を受け太鼓の演奏に取り組み、発表した。	山一小
			A	山二輪太鼓、笠浜甚句、花釜音頭等伝統文化を学ぶ授業を行い、運動会や学習発表会で発表することにより、地域の皆さんに喜んで頂きながら、自己有用感などを高めることができた。	山二小
			N	実施していない。	山元中
			B	坂元小学校で「こども神楽」を取り入れた学習の補助を行った。他の小・中学校でも無形文化財を活用した授業等が実施できるよう補助体制を整えていく。	生涯学習課
		地域と関わる活動や体験の推進	A	農業や漁業、食文化について触れ、深く学ぶことができた。	坂元小
			A	地域の特産物であるイチゴの学習を通して、地域理解を深めることができた。	山下小

歴史や伝統・文化の理解と尊重	郷土に対する誇りや愛着を育むため、地域に伝承する文化財等に触れ親しむ機会を提供する。	地域と関わる活動や体験の推進	A	独居老人に、縦割りグループで作製した手作りのカレンダーを配布して喜ばれている。	山一小
			A	地域公園清掃活動や防砂林再生グリーンベルトプロジェクト、はらこ飯づくり、笠浜甚句・花釜音頭などで地域と関わり、地域の方とのふれあいを通じて郷土に対する愛着を育んできた。	山二小
			N	コロナ禍のため実施しなかった。	山元中

(2) 国際理解を育む教育 **重点的事項⑨**

項目	取組のねらい・概要	具体的な取組	令和3年度		担当課 学校等
			評価	成果と課題	
国際理解教育の推進とコミュニケーション能力の育成	地域や日本の伝統・文化とともに、他国の歴史や文化に対する理解を深めさせ、国際化社会で活躍できる人材を育成する。	各教科等での指導を通じた異文化理解とそれを尊重する態度の育成	A	社会科や外国語活動を通して、他国の暮らしや文化、日本とのつながり等を学ぶことができた。	坂元小
			A	外国語活動や総合的な学習の時間を活用して、外国の歴史や文化絵の理解を深め、尊重する態度を養うことができた。	山下小
			A	外国語や外国語活動の他、各教科でも外国の文化に触れることで異文化を理解する態度を育成している。	山一小
			A	外国語科や外国語活動、社会、国語、道徳などの学習内容を通して異文化の理解とそれを尊重する態度が養われてきている。	山二小
			A	英語や社会科等で様々な国の文化の違い、風習や習慣の違いについて学習した。	山元中
		地域人材やALT等を活用した交流（体験）活動の推進	B	ALTから日本との文化の違いを知ることができたが、地域人材との交流については課題がある。	坂元小
			A	ALTや外国語指導補助員との交流を通して、児童のコミュニケーション能力の向上や異文化理解を図ることができた。	山下小
			A	ALTによる指導を受け、外国語だけでなく、諸外国の文化についても学ぶことができています。	山一小
			A	ALTの先生を通じて外国語交流体験を十分に行うことができています。コミュニケーション能力や表現力の向上にもつながってきています。	山二小
			A	ALTを積極的に活用した。	山元中

国際理解教育の推進とコミュニケーション能力の育成	地域や日本の伝統・文化とともに、他国の歴史や文化に対する理解を深めさせ、国際化社会で活躍できる人材を育成する。	小・中学校へのALTの配置と活用	A	JTEや担任と連携しながら、学習に興味を持てるような学習内容や手立てを工夫し、学習効果を得ることができた。	坂元小
			A	年間を通じて計画的に配置され、学習を進めることができた。	山下小
			A	1年間計画的にALTが配置されることにより、ネイティブな外国語に触れる良い機会を得ることができた。	山一小
			A	ALTが年間週1回ずつ、適切に配置されて、安定的にネイティブの外国語に触れて学習できることは、とても良い刺激となっている。	山二小
			A	全クラスが週3回の割合でALTとか関わられるようにした。また休み時間でも関わる場面を設定した。	山元中
			B	中学校ALTにおいて3年目更新の承諾を得ることができた。また、小学校ALT配置業務は、業務委託契約から派遣契約へと切り替えることができた。	教育総務課
		新学習指導要領に対応するため小学校への外国語指導補助員の配置と活用	A	担任と合同で授業づくりをすることで、児童の育てたい力を共有し、外国語に対する学習意欲を高めることができた。	坂元小
			A	外国語指導補助員の配置により、効果的に指導が行われている。	山下小
			A	外国語指導補助員の配置により、効果的な外国語指導が行われた。今後も是非、配置を要望する。	山一小
			A	外国語科と外国語活動が高学年・中学年で本格的に始まり、外国語指導補助員がいることで、4学年にまたがる授業でも、調整してスムーズにできているので、とても良い。	山二小
		B	小学校の外国語学習において、児童、教員、ALTの間に入ることで、円滑に授業を進めることができた。	教育総務課	

山元町教育振興基本計画アクションプランに基づく点検評価表

基本方向6 生涯にわたる学習・文化・スポーツ活動の推進

(1) 地域をつくる生涯学習・文化芸術の推進

項目	取組のねらい・概要	具体的な取組	令和3年度		担当課 学校等
			評価	成果と課題	
生涯学習・ 文化芸術の 振興	生涯学習関係機関並びに文化芸術団体等と連携を図り、生涯学習・文化芸術に身近に親しむ機会を提供する。	町広報誌やホームページ等を通じ、関係機関・団体等が開催する展示会や発表会の情報提供	N	新型コロナウイルスの影響で、展示会や発表会が中止になったため、情報提供は行っていない。	生涯 学習課
		国や県の事業（巡回小劇場等）の積極的な活用	N	コロナ禍で巡回小劇場等を見送り	坂元小
			N	実施せず。	山下小
			A	アウトリーチコンサートを活用し、ピアノとバイオリンのプロによる音楽に触れることができた。	山一小
			A	宮城県巡回小劇場による演劇公演「給食番長」を行った。	山二小
			N	今年度は実施しなかった。	山元中
			A	山下第二小学校を会場に、宮城県巡回小劇場による演劇公演「給食番長」を行った。	生涯 学習課

(2) 文化財の保護と活用

項目	取組のねらい・概要	具体的な取組	令和3年度		担当課 学校等
			評価	成果と課題	
文化財の保 存・保護	各種文化財の適切な保存・展示及び活動場所の環境整備に努め、文化財保護の普及・啓発を図る。	文化財標柱の更新等	B	町民の文化財保護の理解を深めるため、町内の遺跡2か所に標柱を設置した。	生涯 学習課
		社会科副読本の作成（掲載検討・指導）	N	令和3年度は副読本の作成せず。	坂元小
			A	地域の実情に合わせた副読本を、主に中学年において活用することができた。	山下小
			A	中学年の社会科を中心に活用した。地域素材の資料として今後も継続して作成していただきたい。	山一小

文化財の保存・保護	各種文化財の適切な保存・展示及び活動場所の環境整備に努め、文化財保護の普及・啓発を図る。	社会科副読本の作成（掲載検討・指導）	A	児童にとって自分の育った土地の、大昔から伝わってきた文化財を知り、生まれ故郷の特徴を肯定的に理解することに役立つ。掲載については、とても素晴らしいことだと考える。すでに別資料などで指導は行っている。	山二小
			A	線刻壁画等町内の文化財や伝統芸能を掲載しており、町内の文化財に対する意識を高めることができた。	教育総務課
		無形文化財伝承団体に対し、関係する機関や団体等が開催する発表会等の情報提供	N	新型コロナウイルスの影響により、町民文化祭および伝統芸能まつりが中止となったため、発表会が行えなかった。	生涯学習課
		町指定文化財「茶室」とその周辺の活用方法等の検討	N	茶室の整備については、2月13日に発生した福島県沖を震源とする地震の影響により、町民体育館の復旧方針が決定するまで実施設計業務を一時執行停止とした。	
		発掘出土品を活用した歴史ものづくり教室の開催	A	昨年度に引き続き、歴史授業の一環として、「勾玉づくり」や「古代の鏡づくり」といった歴史ものづくりや町内の遺跡からの出土品に直接触れるなどの体験を通してふるさとの理解を深める教室を実施した。	

(3) 生涯スポーツ社会の実現に向けた環境の充実 **重点的事項⑩**

項目	取組のねらい・概要	具体的な取組	令和3年度		担当課 学校等
			評価	成果と課題	
社会体育施設の整備・充実	競技人口の推移を見据えた長期的な視点での活用計画を検討する。	町民グラウンドの復旧及び備品等の整備	N	事業終了	生涯学習課
		町民グラウンドの機能拡張を図るための計画・設計	N	事業終了	
	体育文化センター等の施設の修繕及び器具の更新を計画的に実施する。	施設の計画的な修繕の実施	B	体育施設に特化した耐震診断を実施し、耐震補強を追加したうえで長寿命化計画実施に向けた準備をおこなった。	
学校施設の開放推進	社会体育施設と緊密に利用調整を行い、各施設の効果的な活用を図る。	利用調整を図るための関係団体間の定期調整会議の開催	A	利用団体の代表者同士で事前に連絡先を確認したので、日程変更等についても円滑に調整し、相互の連携が図られている。	坂元小
			A	校庭、体育館ともに利用団体が一つのため、責任者との個別対応でスムーズな利用ができています。	山下小
			A	利用団体が少なく、調整の必要は無い。	山一小

学校施設の 開放推進	社会体育施設と緊密に利用調整 を行い、各施設の効果的な利活 用を図る。	利用調整を図るための関係団体間の定期 調整会議の開催	B	利用団体が複数あるが、1団体の責任者と1対1の打ち 合わせのみで済ませており、全部の団体が参加できるよ うに会議案内するような日程調整が難しく、会議の形に できていない。	山二小	
			B	コロナ禍での学校施設の開放に向けての調整会議を行 い、利用にあたっての注意事項を共通理解することがで きた。	山元中	
			A	定期利用団体に対し町民グラウンド及び各体育施設（旧 坂元中・各学校体育館）の利用調整を行った。	生涯 学習課	
			A	定期利用団体に対し旧坂中グラウンド及び各体育施設 （旧坂元中・各学校体育館）の利用調整を行った。	教育 総務課	
	効率的かつ効果的な利活用の促進			A	改修工事が完了してから数ヶ月の利用だったが、利用団 体と定期的に連絡を取り合っており、問題なく活用して いる。	坂元小
				A	計画的に開放し、利用されている。	山下小
				B	体育館を開放しているが、トイレがなく、利用者は困っ ている。	山一小
				A	令和3年度は、複数の利用団体との相談で、1～2カ月 置きの情報交換やアドバイスで効果的な利活用になるよ う取り組んでいる。	山二小
				A	各種団体に計画的に利用していただいた。各団体のマ ナーも良く、どの団体も清掃・消毒作業を行っていた。	山元中
				B	社会体育施設の定期利用団体定期会議を実施するととも に、関係団体と都度連絡調整を行い、施設の効果的な利 活用を図った。	生涯 学習課
B	各学校において施設の効率的かつ効果的な利活用を推進 できるように連絡調整を行った。	教育 総務課				

山元町教育振興基本計画アクションプランに基づく点検評価表

基本方向7 防災教育をととした命を守る意識の高揚

(1) 防災教育の推進、充実 **重点的事項⑪**

項目	取組のねらい・概要	具体的な取組	令和3年度		担当課 学校等
			評価	成果と課題	
大震災の教訓を生かした防災教育の推進	学校における防災教育を通して、「自助」「共助」の重要性の理解、減災につながる技術の習得等を図る。	計画に基づいた総合的な学習、各教科等での防災教育の推進	A	総合的な学習の時間に防災・復興について新規の内容（地元企業のGRA）を加え、更に充実させることができた。	坂元小
			A	学校防災マニュアルを見直し、整備するとともに、総合的な学習の時間に年間10時間の防災教育を位置付けている。	山下小
			A	防災拠点のひだまりホールの見学や震災遺構の中浜小の見学など、発達段階に応じて計画的に実施した。	山一小
			A	中浜小学校の見学、防災施設ひだまりホールの見学等に加え、地域の方から震災と復興の様子を直に聞いて、命の大切さ・ふるさとの復興や町作りを学んだ。	山二小
			A	防災教育全体計画に沿って学校教育活動全般にわたり指導することができた。	山元中
		みやぎ防災教育副読本や町社会科副読本等を活用した指導の充実（小学校R2～）	A	みやぎ防災教育副読本「未来への絆」を総合的な学習の時間の年間指導計画に位置付け、町の社会科副読本とともに活用することができた。	坂元小
			A	防災教育年間計画に位置付け、総合的な学習の時間や学級活動で活用した。	山下小
			A	総合的な学習や学級活動など、必要に応じて活用し防災について理解を深めた。	山一小
			A	みやぎ防災教育副読本や町社会科副読本等の活用を総合的な学習や教科における防災教育の年間指導計画に位置付けて、指導の充実を図っている。	山二小
			A	各教科等でも指導した。	山元中
			A	社会科副読本及び付属DVDに防災教育関連資料を掲載しており、各学校の授業で活用されている。	教育 総務課
			校内における避難訓練の実施など	A	コロナ禍で制限はあったが、児童自ら状況を判断し、行動できるよう、訓練の内容を工夫した。
		A		避難経路確認、地震・津波・火災想定訓練、防犯訓練、一斉下校指導、引き渡し訓練を計画に基づき実施した。	山下小

大震災の教訓を生かした防災教育の推進	学校における防災教育を通して、「自助」「共助」の重要性の理解、減災につながる技術の習得等を図る。	校内における避難訓練の実施など	A	地震（津波）、火災、不審者に対応する避難訓練の他、引き渡し訓練も実施し、災害に備えた。	山一小
			A	教育計画に基づき各種訓練を実施した。事前の内容精査をし、実施後の改善点検討を次回につなげている。	山二小
			A	計画通りに実施できたが、今後は回数を増やし、またショート訓練も行うなどして、生徒一人一人に防災力を身に付ける必要がある。	山元中
	宮崎市との交流事業により、防災意識の高揚を図る。	隔年で相互訪問	N	コロナ禍のため実施しなかった。	山元中
			N	令和3年度は、山元町が宮崎市を訪問する年度であったが、新型コロナウイルス感染症拡大防止の観点から中止した。	教育総務課
	町施設を活用した防災学習を推進し、各種事業を通して防災に対する意識高揚を図る。	町防災拠点施設での防災学習	A	ひだまりホールでの活用では、以前実施できなかったクイズラリーを実施した。中浜小学校の学習も順調に進めることができた。	坂元小
			A	町防災拠点施設を見学し、充実した防災学習を行うことができた。	山下小
			A	震災遺構や防災拠点を実際に見学し、詳しく説明を受けることで、危機意識や防災意識が高まった。	山一小
			A	計画に基づき、防災施設としてのひだまりホール内の見学と個別のテーマを設けた防災学習を行った。	山二小
			A	校内総合防災訓練で、震災遺構中浜小学校を活用した。	山元中
			A	町内小中学校の防災学習の一環として施設の見学を受け入れ、子供たちの防災・減災の知識を高めることができた。	生涯学習課
			N	新型コロナウイルスの影響により感染拡大を防止するため中止とした。	生涯学習課
	N	小中学生、一般の見学者を対象に、備蓄倉庫等、施設内の案内やマンホールトイレ設置体験等を防災キャンプで実施予定だったが中止とした。			

(2) 地域の自主防災訓練や町総合防災訓練への参加

項目	取組のねらい・概要	具体的な取組	令和3年度		担当課 学校等
			評価	成果と課題	
関係機関等との連携	東日本大震災の被災経験を生かすため、地域・関係機関等との連携を密にし、地域・町を挙げて防災教育の推進・充実を図る。	学校及び幼稚園・保育所・町総務課危機管理班等による防災担当者の開催とその充実	B	内容が精選され、少しずつ改善されているが、コロナ禍により、最終の会議が中止になるなど、十分な反省ができなかった。	坂元小
			A	防災担当者会での話合いの内容が、防災主任を通して全職員に情報共有されている。	山下小
			A	防災担当者会で情報交換することで、学校防災の推進や充実が図られている。	山一小
			A	防災担当者会が開催され、校内での共通理解を図り、関係諸機関との連携がとれた。	山二小
			A	防災担当者会で協議されたことについて、校内で情報共有できたことは良かった。	山元中
			A	防災担当者会に出席し、各校での防災訓練等の協議を進め、連携を図ることができた。	教育総務課
		学校と各地区自主防災会との連携による防災体制の確立	B	町の総合防災訓練がなく、連携する場がなかった。そこで、学校評議員会等で意見交換をした。	坂元小
			B	学校運営協議会において、自主防災会との情報共有をすることができた。	山下小
			N	令和3年度は、学校として町の総合防災訓練の参加はなかった。	山一小
			B	コロナ禍の関係で町内防災訓練は休日に任意の児童参加となった。そのことを、学校の授業で振り返り次回の防災訓練に生かすようにしている。	山二小
			N	コロナ禍のため実施できなかった。	山元中
			N	総合防災訓練において町主導のもと各学校の訓練を行っているが、教育総務課が主体として各学校と地区防災会の連携までは図っていない。	教育総務課

児童生徒の 防災訓練への参加	町総合防災訓練並びに地域で行われる自主防災訓練に積極的に参加させ、災害発生時の対応力を身に付けさせる。	学校を登校日とした町総合防災訓練への参加（居住地域ごとの避難訓練及び研修）	N	登校日として参加、実施せず	坂元小
			N	登校日にしての町防災訓練は実施せず。	山下小
			N	令和3年度は、学校として町の総合防災訓練の参加はなかった。	山一小
			B	コロナ禍の関係で休日の地域ごとの参加となった。	山二小
			N	コロナ禍のため実施できなかった。	山元中
			N	令和3年10月31日に実施した町総合防災訓練では、新型コロナウイルス感染症の影響により、シェイクアウト訓練を中心としたテレワークでの訓練を実施しており、児童、生徒も自宅で訓練に参加したが、学校を登校日とした参加ではないことから、評価不能とします。	総務課
			N	町総合防災訓練では、新型コロナウイルス感染症の影響により、シェイクアウト訓練を中心としたテレワークでの訓練を実施しており、児童、生徒も自宅で訓練に参加したが、学校を登校日とした参加ではないことから、評価不能とします。	教育 総務課
	地域で行われる自主防災訓練への積極的な参加の呼びかけ	B	昨年度に各家庭で作成した「マイタイムライン」の避難場所を再確認させた。また、シェイクアウト訓練にも積極的に参加していた。	坂元小	
		N	登校日にしての町防災訓練は実施しなかったため、地域で行われるものについての呼び掛けも行えなかった。	山下小	
		N	令和3年度は、学校として町の総合防災訓練の参加はなかった。	山一小	
		B	学校の便りなどを通じて家庭への啓発を行っている。	山二小	
		A	地区で行われる行事への参加を呼びかけた。	山元中	

(3) 震災遺構の活用

項目	取組のねらい・概要	具体的な取組	令和3年度		担当課 学校等
			評価	成果と課題	
旧中浜小学校震災遺構 保存活用事業	東日本大震災の脅威・教訓を風化させることなく伝承し、後世に防災・減災の意識・知識を向上させるため、震災により被災した旧中浜小学校を「震災遺構」として保存・活用を図る。	震災遺構としての整備・保存	A	被災建築物に立ち入り見学できる数少ない震災遺構として令和2年9月26日一般公開を開始して以降、全国から多数の来館者が訪れている。	生涯 学習課
		防災教育としての活用	B	町内小・中学校の防災教育プログラムに、震災遺構の見学・研修を取り入れ、防災・減災教育に活用されている。県内外の中学校・高等学校の教育旅行、自治体や企業・団体等の防災・研修旅行にも活用されるよう、引き続き、広報活動等に努めていきたい。	生涯 学習課

点検評価の集計

担当学校等	評価項目数	A		B		C		D		N	
		項目数	%	項目数	%	項目数	%	項目数	%	項目数	%
坂元小学校	78	64	82.1	11	14.1	0	0.0	0	0.0	3	3.8
山下小学校	78	67	85.9	4	5.1	0	0.0	0	0.0	7	9.0
山下第一小学校	78	62	79.5	11	14.1	0	0.0	0	0.0	5	6.4
山下第二小学校	78	72	92.3	5	6.4	0	0.0	0	0.0	1	1.3
山元中学校	76	50	65.8	15	19.7	0	0.0	0	0.0	11	14.5
教育総務課	54	38	70.4	9	16.7	0	0.0	0	0.0	7	13.0
生涯学習課	35	16	45.7	11	31.4	0	0.0	0	0.0	8	22.9
総務課	1	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	1	100.0
子育て定住推進課	5	3	60.0	2	40.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0
合 計	483	372	77.0	68	14.1	0	0.0	0	0.0	43	8.9

IV 学識経験者の意見書

はじめに

令和3年度は、坂元中学校と山下中学校の再編により新生「山元中学校」が開校したことに代表されるように、実施最終年度を迎えた山元町教育振興基本計画（アクションプラン）が具体的に、そして力強く推進された1年であったように感じます。

コロナ禍の中での教育行政推進を余儀なくされた状況の令和3年度にあっても、夢や志をもち、その実現に向けて自ら学び、自ら行動し、たくましく社会を生き抜く児童生徒を育成することを目指し、山元町教育委員会が保護者や地域住民からの信頼の下に各学校及び関係諸機関・団体と連携してその課題解決に向けて日々取り組まれている様子が強くうかがえました。

今回、山元町教育委員会の令和3年度事業について、意見を申し述べる機会を頂戴しましたので以下に気付いた点を記させていただきます。

なお、意見の中に引用する「点検評価」は、山元町教育委員会及び各学校における点検評価であり、その「達成度」はA：90%以上、B：70%以上、C：40%以上、D：40%未満、N：評価不能と設定されています。

1 教育委員会の活動について

定例会の付議事件等からは山元町における生涯学習社会の実現を志向し、コロナ禍の今は勿論、コロナ後を見据えた教育のさらなる充実を目指して審議がなされ、臨時会についても適時に開催されたものと推察します。

2回開催された総合教育会議についても、第2期山元町教育振興基本計画の策定、小学校再編、2学期制導入の検討などが中心の議題として取り上げられており、会議が十分機能していることがうかがえます。

実情の把握と必要な指導助言を行うためになされている教育委員の教育機関訪問は、コロナ禍における施設運営や学校経営について課題を共有し、その対応を考える上で例年にも増して有効であったと考えます。意見交換についても、特に各地域の学校の現状と課題の把握、要望等の聞取り等が行われ、有意義な機会になったものと考えます。

2 教育関係経費決算の状況について

教育費は前年度比48.9%の減少となりましたが、坂元小学校の校舍改修工事の完了、ICT機器整備事業の終了など、中・大規模事業が予定通り遂行されたためのものであり、適正な決算状況であると考えます。

特に、ICT機器整備事業は、コロナ禍の教育という側面だけでなく、ICTがこれからの教育の可能性を広げるという観点から一層の充実が期待できます。坂元小学校の校舍改修工事についても、「地域の核」としての学校に対する住民の期待がさらに膨らむことが期待できます。

3 学校教育の充実について

(1) 小・中学校児童生徒数等について

児童生徒数は19名の増加でしたが、小学1年生の14名増加が特徴的でした。『子育てするなら山元町!』をスローガンに、ライフステージに応じた「切れ目のない支援」などにより子育てしやすいまちづくりを進めてきたことが一つの要因であると考えます。

小・中学校共に、1学級当たりの児童生徒数も個に応じた指導等が行いやすい適正人数と思われるので、「みのりプロジェクト」に代表される山元町教育振興基本計画の基本方向と基本施

策に沿って、一人一人の児童生徒によりきめ細かく目が行き届く取組みが展開されることを期待します。

(2) 就学援助事業について

経済面での「教育格差」の解消につながる援助・支援事業が手厚く行われています。援助対象人数が、例えば「要保護・準要保護就学支援事業」においては小学校、中学校共に約10%という割合になっていますが、本事業の成果を検証する観点から、その経年変化や他市町村との比較データなども記載することが必要かと考えます。

「新入学学用品費」については、特に中学校の「前倒し支給」が一層活用される事が期待されます。

(3) 学校給食費補助事業について

多子世帯の経済的負担を軽減し、子育て支援を推進するという事業であり、高く評価できます。子育て世代の山元町への移住増加などにも結び付く事業であると考えます。

(4) 学校教育充実事業（みのりプロジェクト）について ～基本方向3－（2）との関連～

基本方向3「(2)『みのりプロジェクト』(学校教育充実推進事業)推進による学校教育の充実」重点的事項⑥」に関連する点検評価はほとんどの項目が「A」評価でした。

山元町教育振興基本計画の基本方針の一つである「未来を生き抜く力の育成を目指す学校教育」を具現化するために、教育委員会と各学校が課題意識と認識を共有しながら取り組んだことがうかがえます。

大学との連携による研修会も積極的に取り組まれており、今後さらに大学教員の専門性や知見を校内研修の活性化に生かすことなども検討してもよいと考えます。

(5) 山元町いじめ問題対策連絡協議会について ～基本方向2－（1）との関連～

連絡協議会が適切に運営され、機能していることがうかがえます。令和3年度のいじめ認知件数は前年度より11件増の17件になっていますが、継続指導中の5件が解消されることを望みます。

特に児童生徒数が少なく、単学級などの場合には児童生徒の人間関係は固定されがちですので、いじめの未然防止・早期発見のための指導上の配慮と工夫、保護者や地域への啓発が一層求められます。

また、宮城県内においても深刻ないじめ事案が発生していることや、インターネットやSNSなどによるいじめも増加していることから、山元町教育委員会及び各学校の「いじめ防止対策基本方針」の不断の見直しが必要であると考えます。

なお、基本方向2「(1) 感性豊かでたくましい心を持つ子どもの育成と支援 重点的事項③」と関連する点検評価はほとんどの項目が「A」評価でした。各小・中学校において道徳教育の充実・推進により規範意識の醸成を図るとともに、各教科等の指導においてはコミュニケーション能力の育成に努めるなど、児童生徒の実態に即した取組みが見られます。

児童生徒が安心して学校生活に臨むことができるように、教職員の日常の観察に加え、アンケートを定期的実施して児童生徒の人間関係の把握を適切に行い、必要な対応を取っていることがうかがえます。いじめなどの問題行動、不登校などについては、関係機関との連携、SSWやSCの活用なども行いながら、該当児童生徒及び家庭に対して積極的に働きかけるという各小・中学校の地道な取組みもうかがえます。

【その他の評価指標】「自分にはよいところがあると思う」については、小学生が89.4%、中学生が80.0%と前年度より高くなっています。多様性を認め合える集団づくり、自分の居場所がある集団づくりなどを今後も進め、児童生徒の自己肯定感や自己有用感がさらに高まるような指導を期待します。

【その他の評価指標】「学校が楽しい」については、小学生が89.4%、中学生が91.4%と高い割合です。「楽しい」と感じられない場合の該当児童生徒への支援・声掛けを丁寧に行い、学校生活への不適応のリスクを軽減することに力を注いでいただきたいと思います。

(6) 子どもの心のケアハウス運営事業について

年度内に228日開所して4名の中学生を受け入れていること、相談件数が317件に上っていることなどから、各学校及び保護者とケアハウスの連携が十分になされて機能していることがうかがえます。相談件数が前年度の115件から約2.8倍に増加していることから、学校、家庭、地域、各関係機関との一層の連携、情報と認識の共有を重視することが求められます。

名取市の心のケアハウスは開所以来、山元町教育委員会が連携協定を締結している尚絅学院大学の学生がボランティアとしてかわり、専任の担当職員の指導の下に活動し効果を上げています。白石市の心のケアハウスとの連携も進んでいます。山元町の心のケアハウスにおいても、必要に応じて学生ボランティアの導入を検討してもよいかと考えます。

(7) 教育振興基本計画策定事業

複雑化・多様化する教育課題への対応、予測困難なこれからの時代を生き抜き、山元町の未来を託す児童生徒の教育の在り方、生涯学習社会の一層推進など、国の第3期教育振興基本計画や「令和の日本型学校教育」をふまえた第2期山元町教育振興基本計画が策定されたことは特筆される取組みです。

住民アンケート調査も反映された当基本計画は、当然のことながら山元町のまちづくりとも連動するものと考えますので、具体的にそして強力に推進されることを期待します。

(8) 学力調査実施事業について ～基本方向1-(2)との関連～

調査結果を受けた授業改善、児童生徒の学び方の指導、評価の工夫・改善などに積極的に取り組まれたことと推察します。校内研究等において、育成すべき資質能力を踏まえながら、「主体的・対話的で深い学び」を実現する授業に主眼を置き、児童生徒の学力向上が一層図られることを期待します。

なお、基本方向1「(2) 基礎的な学力の定着と活用する力の伸長 重点的事項①」と関連する点検評価はほとんどの項目が「A」評価であり、各小・中学校においてTTによる指導や少人数指導、協働による授業づくり、「山元の子ども 3つの約束」の活用などに継続的に取り組み、コロナ禍にあっても学力の保障と向上に向けて取り組んだ様子がうかがえます。このことは、【その他の評価指標】『授業が分かる』と答える児童生徒の割合(小5・中1)が小学校は国語、算数が共に86%以上、中学校は国語、数学が共に97%台という高い割合であることからもうかがえます。

加配分の教員の確保については難しい現状もありますが、山元町教育委員会と宮城県教育委員会及び宮城県仙台教育事務所の一層の連携・協力を期待いたします。

(9) 子ども見守り隊活動支援事業について

不審者の出没、登下校時の悲惨な交通事故などが各地で起きている状況の中で、児童の安全確

保に地域と一体となって取り組むことは、今後も重視されるべきことです。見守り隊の活動と共に、家庭や学校においても児童に対しても生活安全、交通安全、災害安全について繰り返し指導することが今後も求められると考えます。

(10) 特別支援教育支援員・スクールサポートスタッフ配置について

～基本方向1－(5)との関連～

点検評価の該当する項目すべてにおいて、教育委員会、各学校の評価が「A」でした。

特別支援教育支援員が全校に配置され、校長先生方のリーダーシップの下に特別支援教育コーディネーターを中心とした支援体制が確立されていることがうかがえます。

地域支援コーディネーターの活用などによる山元支援学校との連携、特別支援連絡協議会を通じた幼稚園・保育所(園)・小学校・中学校との連携も積極的になされています。

連携大学である宮城教育大学や尚絅学院大学の協力も必要に応じて得ながら、通常学級に在籍する要配慮児童・生徒への指導・支援も含めて、一人一人の教育的ニーズに応える教育活動の展開・推進をさらに図っていただきたいと考えます。

スクールサポートスタッフも全校に配置され、目的に即した取組みが行われていることがうかがえます。「チームとしての学校」の理念に基づく学校経営、教職員の働き方改革が求められる中、今後もスクールサポートスタッフに加え、学習指導支援員や部活動指導員などの配置と活用を期待します。

(11) 奨学生緊急支援事業について

大変適切な事業展開であると考えます。引き続き、支援が必要なケースについて適宜、適切な対応がなされることを期待します。

(12) 主な施設設備等の状況について ～基本方向3－(5)との関連～

①小・中学校校務支援システム導入事業

教職員の業務負担軽減が喫緊の課題である中で、校務支援システムの導入は大変意義のある事業であると言えます。教職員の業務の質的転換を図ることにもなり、児童生徒にとって真に必要な総合的な指導をより充実させる状況が生まれるものと考えます。

点検評価における関係の項目も、すべて「A」評価でした。

②小中学校ICT支援員配置事業

「GIGAスクール構想」を加速化するうえで、ICT支援員の配置は効果的であると言えます。点検評価においても、「ICT支援員による授業支援の充実により、生徒と教師の情報活用能力を育成することができた。」という記述が見られました。

災害や感染症などの発生により学校が臨時休業の措置を取らざるを得ない状況になった場合でも、「学びの保障」ができる環境を整えるという点で、ICT支援員のさらなる活用を期待されます。

(13) 学校給食の概要について ～基本方向2－(3)との関連～

基本方向2「(3)食に関心を持ち、元気な子どもの育成」と関連する点検評価はほとんどの項目が「A」評価であり、各校において充実した取組みが行われたものと考えます。

「給食だより」を発行して家庭と連携した食育を充実させること、栄養教諭や栄養士の活用、地元食材の積極的な導入、本年度はコロナ禍で実施できなかった郷土料理(はらこめしづくり)体験事業の継続などにより、学校給食が児童生徒にとってさらに魅力あるものになり、地域の食

文化・食習慣の理解につながるものとなるよう期待します。

また、【その他の評価指標】において、「朝食を毎日食べてくる」と答えた児童生徒の割合（小5・中1）が小学校では93%ですが、中学生は前年度の97.7%から75.7%に低下しています。学校と家庭が、食育の充実に向けてさらなる連携を取ることが求められます。

なお、令和3年度の給食費の改定については、保護者への丁寧な説明がなされたものと考えます。「自然災害、インフルエンザでの学級閉鎖時の等の給食費の取扱い」についても、より保護者の立場に立った対応であり、評価できます。

令和2年度から始まった給食費の公会計化については、教職員の業務負担軽減に確実に繋がっていることが点検評価における該当項目の評価からうかがえます。

4 生涯学習の推進

いずれの項目も、「山元町教育基本計画アクションプラン」に基づいて計画・実践されており、住民主体による家庭・地域・学校などが一体となった協働による「まちづくり」という理念・方向性が明確です。乳幼児から高齢者までのすべての世代を対象とした、適時適切な事業が計画されています。

（1）家庭・地域・学校が協働して子どもを育てる環境づくりについて ～基本方向4との関連～

「①親の『学び』と『子育て』を支える環境づくり」については、点検評価において「B」評価がほとんどです。子育て定住推進課や教育委員会生涯学習課が中心となり、関係団体・機関との連携をさらに深め、子育てサポーター養成のための講座や研修会の実施、家庭教育支援チーム「つばめ」による家庭教育学級等の支援や情報誌発行などの取組みが今後も継続されることを期待します。

「②地域と学校との協働による学校支援の仕組みづくり」については、地域学校協働本部の設置と地域学校協働活動コーディネーターの委嘱、地域人材の積極的な活用がなされており、高く評価できます。「りんごの学習指導」や「いちごの学習指導」、「命の教室」、「防災グッズ作り」など、地域の教育資源を活用した取組みがなされています。さらには、コロナ禍にあっても35回の「放課後子ども教室」を開催し、子どもが興味・関心を高める体験活動を取り入れ、高い出席率を得ています。

「地域とともにある学校」づくり、「社会に開かれた教育課程」の展開が強く求められる中で、こうした地域と学校との協働は「コミュニティ・スクール」の導入とともに非常に重要な取組みであることから、今後の活動にさらに期待できます。

「④家庭教育の充実」については、点検評価において全項目が「A」評価でした。家庭教育学級や幼児学級、家庭教育講座が十分機能したものと考えます。学校と家庭が認識を共有して子どもが取り組む「山元の子どもの3つの約束」、「家庭学習の手引き」、「はやね・はやおき・あさごはんがんばりカード」などの活用も効果的であると言えます。

（2）生涯にわたる学習・文化・スポーツ活動の推進について ～基本方向6との関連～

コロナ禍で、施設利用の制限、各種事業・行事の中止等に踏み切らざるを得ない状況があったことが影響し、点検評価において「N」評価が目立ちました。

そうした中で、学校施設の開放推進が積極的になされるなど、工夫・改善しながら生涯学習の推進に向けて努力を継続されたことがうかがえます。状況が収まり次第、さらなる充実した事業展開がなされることを期待いたします。

(3) 防災教育を通じた命を守る意識の高揚 ～基本方向7との関連～

震災遺構中浜小学校は、令和2年度末の入館者数が15,354人を数え、その3割弱が県外からの見学者であり、全国からの注目度が高いことを示しています。

点検評価においても、「町防災拠点施設での防災学習」の項目が町内すべての小・中学校及び生涯学習課の評価が「A」となっており、町内二つの防災拠点・地域交流センターとの連携の下に防災学習が計画的・系統的に行われていることがうかがえます。

山元町教育委員会のHPでは、震災遺構中浜小学校について「あなたの目で見て、考え、読み取って未来の災害に備える知識に変えてください」と紹介しています。東日本大震災の被災地の役割として、防災教育の重要性と震災の記憶の伝承について今後も全国に発信することは重要であると考えます。

5 その他 ～山元町教育委員会に関する点検評価報告書（評価表）について～

コロナ禍もあって、基本施策に基づく事業の推進が厳しい状況の中、教育委員会各課、各学校の各項目の達成度はほとんど「A」あるいは「B」であることに敬意を表します。

「基本方向1～7」、及び「重点的事項①～⑪」については、「項目」、「取組のねらい・概要」、「具体的な取組」が山元町の教育の方向性を端的に表しており、強く共感いたします。また山元町教育委員会及び各学校における評価、それに基づく成果と課題の分析も的確であると考えます。

以下に、特に基本方向1～3に関して触れなかった項目について意見を記します。

基本方向1 学ぶ力と自立する力の育成

(1) 「志教育」の推進

各小・中学校で、特に「家庭・地域との連携、交流活動や体験活動等の推進」において多様な取組みを行っている点が評価できます。児童生徒が地域の方と触れ合うことは、地域社会への愛着を生み、やがて積極的な地域社会への参画意識の高まりにつながるとともに、児童生徒が「夢や志をもつ」ことにもつながるものと考えます。

また、【その他の評価指標】の「人の役に立つ人間になりたいと思う」については、小・中学生ともにその割合が前年度を上回り95%を超えていることに頼もしさを感じます。今後は、評価指標「将来の夢や目標を持っている」の割合について、各学校の「志教育」に関する取組みを充実させ、一層高めていくことが必要であると考えます。

(2) 基礎的な学力の定着と活用する力の伸長 重点的事項① →前述のとおり

(3) 学校間、幼稚園・保育所・小学校の連携促進 重点的事項②

「学力向上」に焦点を当て、学力向上プランの作成と共有、指導主事訪問時の相互参観などを通して学校間連携に取り組まれており、今後の継続とさらなる連携強化に期待します。

また、幼保小の連携・交流の促進については、点検評価が各小学校及び教育委員会がすべて「A」評価であり、当初の目的が達成されたものと考えます。継続した取組みを期待します。

(4) 時代の要請に応えた教育の推進

高度情報化社会への対応、環境教育の推進の2つを柱に取組みがなされ、点検評価のほとんどの項目で「A」評価です。

「高度情報化社会への対応」に関しては、教育委員会の施策推進により各小・中学校で学力向上に資するICT機器の活用、校務の情報化がなされています。併せて、情報活用能力と情報モ

ラルに焦点を当てた指導の充実を図っている点も評価できます。

「環境教育の推進」に関しては、各小・中学校が地域環境を生かし、地域課題を踏まえながら独自の取組みを行っている点が評価できます。

(5) 一人一人の教育的ニーズに応じた特別支援教育の推進 →前述のとおり

基本方向2 豊かな人間性や社会性、健やかな身体の育成

(1) 感性豊かでたくましい心を持つ子どもの育成と支援 重点的事項③ →前述のとおり

(2) 健康な身体づくりと体力・運動能力の向上 重点的事項④

コロナ禍の中で、体育の授業は勿論、体育的行事、部活動、業間や放課後の時間帯などにおける運動量の確保が難しく、制限される状況であったにもかかわらず、各小・中学校で工夫した取組みがなされています。今後、児童生徒の体力・運動能力調査の結果分析などを基に、コロナ禍の影響で改善が必要と判断される項目については具体的な取組みが求められます。

また、部活動の地域移行を見据えて準備が進んでいる点が評価できます。「地域における受け皿の整備」と「指導者の質及び量の確保」などについて、今後具体的な方策が示され、スムーズに移行が進むことを期待します。

(3) 食に関心を持ち、元気な子どもの育成 →前述のとおり

(4) 心身の健康を保つ学校保健の充実

各小・中学校が評価対象となる4つの具体的な取組みについて、すべて「A」の評価となっています。校長先生の指導の下、各校の保健主事、養護教諭を中心とした学校保健体制が充実し、児童生徒のために十分に機能していることがうかがえます。

【その他の評価指標】では、「虫歯保有率」が前年度、前々年度に比べ大きく改善しています。家庭との連携の下に、引き続き肥満率や虫歯保有率の改善に向けた取組みを期待します。

基本方向3 信頼され魅力ある教育環境づくり

(1) 小・中学校再編による未来を拓く学校づくりの推進 重点的事項⑤

令和4年度から小学校再編協議が始まる予定ですが、丁寧な説明による再編に関する認識の共有、町民への周知が必要になると考えます。「単に児童生徒数が減少しているから再編」という誤解が生じないように、児童生徒にとっての最適な学びの必要性、「未来を拓く学校づくり」の意義と必要性を十分に理解していただくことが求められると考えます。

坂元中学校と山下中学校の再編による「山元中学校」の誕生に向けた取組みが、小学校再編の協議においても十分生かされるものと考えます。

(2) 「みのりプロジェクト」(学校教育充実事業) 推進による学校教育の充実 重点的事項⑥

→前述のとおり

(3) 豊かな学びを創造するコミュニティ・スクールの推進

2017年に「地方教育行政の組織及び運営に関する法律」が改正されたことに伴い、教育委員会は公立学校をコミュニティ・スクール(学校運営協議会を設置した学校)化することが努力義務となりました。コミュニティ・スクールは、「地域とともにある学校」を実現する上で、さら

にはこれからの「まちづくり」においても大きな役割を果たすことから、令和4年度の導入に向けて、会議や研修を通じて準備が進められていることに大きな意義を感じます。

(4) 学習環境の整備充実と再編に伴う廃校となる校舎等の活用

学校からの情報発信が積極的になされていることが点検評価の結果からわかります。

(5) 子どもたちの学びに向き合う教職員を支援する働き方改革の推進

示されている11の具体的な取組みは、働き方改革を推進する上で効果的な取組みであると考えます。「山元町立小中学校における働き方改革に係る指針」の運用、勤怠システムや校務支援システムの導入、そして学校給食費の公会計化など、教育委員会の方針と取組みは明確であり、家庭や地域の理解も得られている状況であると考えます。

今後は各学校レベルにおいて、校長先生の強いリーダーシップの発揮と、教職員の皆さんが働き方に関する意識を変えることに本格的に取り組んでいくことが求められると考えます。

そして、学校における働き方改革の主眼である「児童生徒と向き合う時間の確保」が実現されるよう期待します。

むすびに

本資料を作成するにあたり、令和4年3月に策定された第2期山元町教育振興基本計画に目を通しました。その中に、第1期計画の振り返りとして次の記述がありました。

「教育振興基本計画当初4年間の点検評価表の傾向をみると、初年度（平成29年度）はB評価が最も多く42.1%でしたが、翌年度はA評価が51.3%と過半数を超え、令和2年度には69.1%まで増加しています。各学校での実践が進み順調な教育活動の展開がなされてきています。」

このことは、山元町教育委員会を中心に各学校、関係機関や団体が教育振興基本計画の確実な実施に向けて連携し、それぞれの取組みについて工夫・改善を加えながら継続し、充実させてきた結果であると考えます。引き続き、

- 子どもたちに、夢や志の実現を目指して自ら考え行動し、社会を生き抜く力を育成すること
- 町民が生涯にわたって学び、互いに高め合いながら、充実した人生を送れる地域社会をつくること

を目標に、山元町教育振興基本計画第1期5年間の成果と課題をふまえ、第2期が展開されていくことを期待いたします。

次代を担う人材が育っていく環境づくり、事業展開を今後も円滑に推進されるよう、教育委員会には学校をはじめ、関係機関・団体との連携の下に一層のご尽力をお願いいたします。

尚綱学院大学 教職課程部門 特任教授 佐藤 佳彦

(元 宮城県南三陸教育事務所 所長)

(元 宮城県教育庁教職員課 副参事)

V 参考法令

地方教育行政の組織及び運営に関する法律 ～抜粋～

(教育に関する事務の管理及び執行の状況の点検及び評価等)

第26条 教育委員会は、毎年、その権限に属する事務（前条第1項の規定により教育長に委任された事務その他教育長の権限に属する事務（同条第4項の規定により事務局職員等に委任された事務を含む。）を含む。）の管理及び執行の状況について点検及び評価を行い、その結果に関する報告書を作成し、これを議会に提出するとともに、公表しなくてはならない。

2 教育委員会は、前項の点検及び評価を行うに当たっては、教育に関し学識経験を有する者の知見の活用を図るものとする。